

平成 30 年度 横浜市公共事業評価委員会に係る道路部会

日 時：平成 31 年 2 月 5 日(火)17:00～19:00

場 所：関内中央ビル(市庁舎側) 5 階 特別会議室

一 次 第 一

I 開会

II 部会長の選出

III 議事

1 審議

- (1)〔再評価〕都市計画道路環状 3 号線（南戸塚地区 外 2） [道路局]
- (2)〔再評価〕市道上大岡第 149・168 号線道路改良事業 [道路局]
- (3)〔再評価〕県道瀬谷柏尾（本郷その 2 地区）道路改良事業 [道路局]
- (4)〔再評価〕主要地方道横浜生田（新羽町地内）道路改良事業 [道路局]
- (5)〔再評価〕県道瀬谷柏尾道路改良事業（相模新橋地区） [道路局]

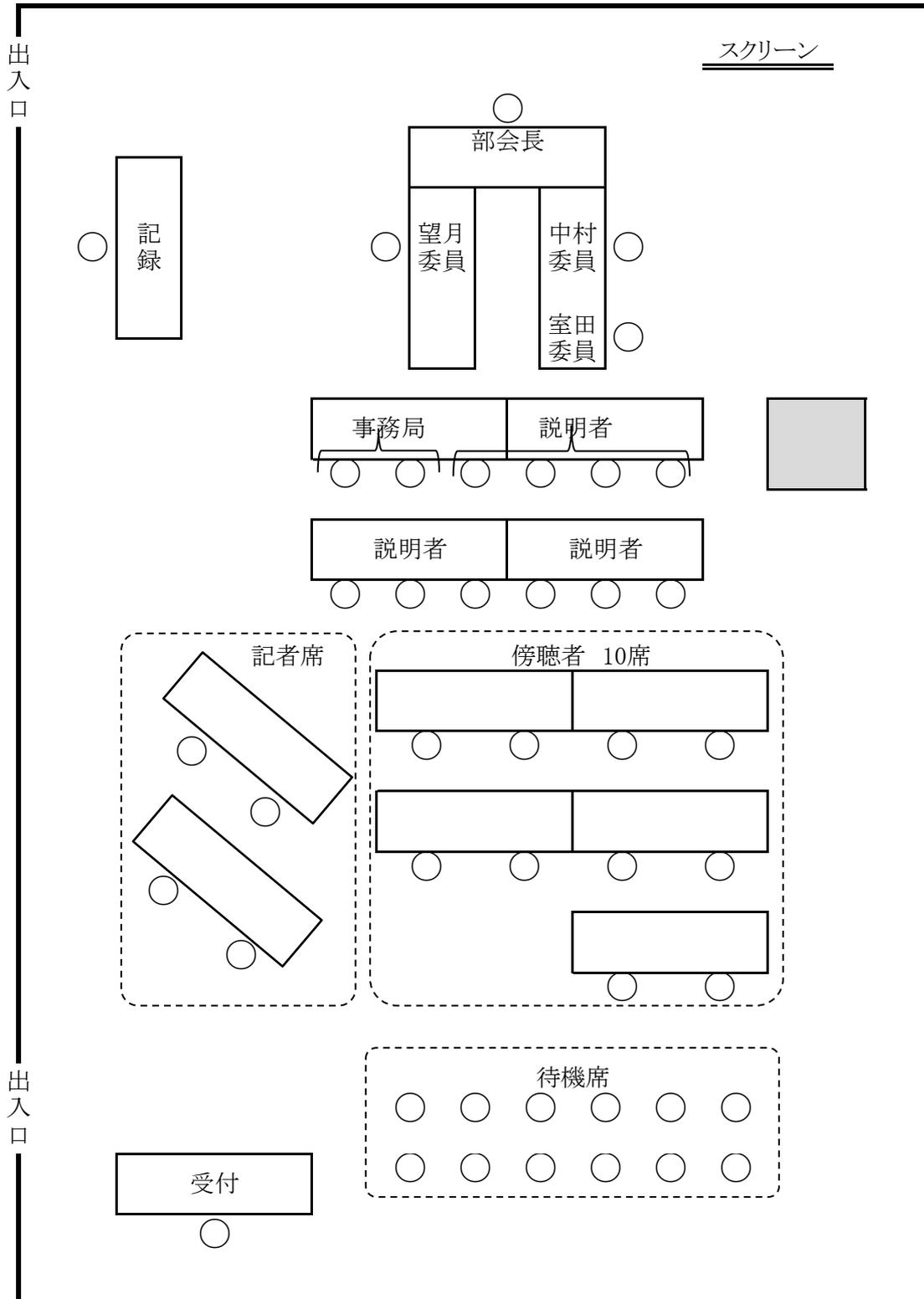
2 その他

IV 閉会

□添付資料

- ・資料 横浜市公共事業評価委員会 座席表・委員名簿
- ・資料①〔再評価〕都市計画道路環状 3 号線（南戸塚地区 外 2） [道路局]
- ・資料②〔再評価〕市道上大岡第 149・168 号線道路改良事業 [道路局]
- ・資料③〔再評価〕県道瀬谷柏尾（本郷その 2 地区）道路改良事業 [道路局]
- ・資料④〔再評価〕主要地方道横浜生田（新羽町地内）道路改良事業 [道路局]
- ・資料⑤〔再評価〕県道瀬谷柏尾道路改良事業（相模新橋地区） [道路局]

平成30年度 横浜市公共事業評価委員会に係る道路部会
(関内中央ビル(市庁舎側) 5階特別会議室)



横浜市公共事業評価委員会に係る道路部会 委員

(敬称略・50音順)

委員名	現職名	専門分野
(なかむら ふみひこ) 中村 文彦	横浜国立大学 理事・副学長	都市交通計画、交通施設計画 都市計画、地域計画
(むろた まさこ) 室田 昌子	東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授	都市計画 市街地・コミュニティ再生
(もちづき まさみつ) 望月 正光	関東学院大学 常務理事 経済学部 教授	財政学、公共経済

資料①

【道路－ 1】再評価

都市計画道路環状 3 号線（南戸塚地区 外 2）

（道路局）

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番 号	道路—1	事業担当局課	道路局 建設課		
事業名	都市計画道路環状3号線(南戸塚地区 外2)		採択年度	S62	
施工場所	戸塚区戸塚町～汲沢町		経過年数	32年	
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>都市計画道路環状3号線は、本市の幹線道路網の骨格となる環状道路の一つに位置付けられており、磯子区杉田五丁目から都筑区佐江戸町までの延長約28kmの重要な幹線道路です。本地区の完成により、国道1号と国道16号がつながることに加え、整備を進めている横浜環状南線(圏央道)の(仮)戸塚ICと接続することから、本市南部地域と湘南方面の連絡が強化され、交通利便性の向上や災害時の道路輸送の機能強化が図られます。合わせて、交通の転換により周辺地域の住環境向上が図られます。</p> <p>なお、本事業の再評価は平成15年度に南戸塚地区を実施し、16年度に戸塚地区、19年度に汲沢地区と3地区ごとに実施しましたが、平成20年度より3地区まとめて実施しています。</p> <p>事業概要</p> <p>本線 : 計画延長 2,030m、幅員 22m (往復4車線)</p> <p>接続ランプ : 計画延長 610m、幅員 12.5m (往復2車線)、用地面積 59,128 m²</p>				
		当 初(事業採択時)	前回(平成24年度)	変 更(平成29年度)	
	事業期間	昭和62年度～平成27年度	昭和62年度～平成29年度	昭和62年度～平成35年度	
	事業費	合 計	23,455 百万円	26,011 百万円	27,174 百万円
		国 費	11,728 百万円	13,006 百万円	13,587 百万円
		市 費	11,727 百万円	13,005 百万円	13,587 百万円
	変更内容	<p>事業実施段階で詳細に検討した結果、擁壁工事等で事業費が増加しました。また、用地交渉が難航していて、事業に多くの時間を要しているため事業期間を変更しました。</p>			
上位計画等	<p>環状3号線の整備は、「横浜市中期4か年計画2018～2021」に掲げられた6つの戦略の中で、「未来を創る強靱な都市づくり～市民生活と経済活動を支える都市基盤～」に位置付けられており、市民生活や経済活動を支えるための政策「交通ネットワークの充実による都市インフラの強化」を達成する事業の1つとして期待されています。</p> <p>また「横浜市地震防災戦略」では、緊急輸送路となる幅員18m(4車線相当)以上の幹線道路の整備を進めるとしており、市内陸部と臨海部との連絡を強化することにより、災害時における消火活動や救命活動、緊急物資の輸送機能を確保し、市民の安全性の向上を図ります。</p>				
関連事業	特になし				
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>国道16号と国道1号が本路線を介しつながることで、本市臨海部との連絡強化により、災害時の広域的な避難路・緊急輸送路としての機能が期待されています。</p> <p>また本路線は、整備を進めている横浜環状南線(圏央道)のICである(仮)戸塚ICにアクセスする路線であり、ICアクセス性の向上が期待されていることから、事業の必要性が高まっています。</p>			

事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)			事業全体	残事業
	割引率		4% (2%)	
	総便益(B)		939.0 億円 (1473.8 億円)	436.7 億円 (685.0 億円)
	総費用(C)		436.6 億円 (300.2 億円)	51.7 億円 (53.0 億円)
	費用便益比 (B/C)		2.2 (4.9)	8.5 (12.9)
	感度分析 [交通量-10%]		1.4 (3.2)	5.5 (8.5)
<p>[定性的効果]</p> <p>これまで住宅地域に入り込んでいた通過交通を本路線へ転換させることができ、住宅地域の住環境が向上するとともに、国道 16 号から国道 1 号までの本市南部地域の交通機能が強化されるとともに、災害時の緊急輸送路としての効果が期待できます。</p> <p>[その他特記事項]</p>				

事業の 進ちよく 状 況	事業進ちよく率%	平成 29 年度末までの用地取得進捗率は 88%、事業進捗率は 75%となっております。 平成 16 年 7 月に計画延長約 2,640mのうち東側区間約 850 mを開通しています。 残事業として西側 1,790mの用地取得と整備があります。本事業で国道 1 号へ接続することで、本市南部地域の交通機能が強化され、これまでの事業効果を最大限に発揮することができます。
	75%	
	用地取得率%	
	88%	
	供用等の状況	
	東側を供用済み	
事業の課題 及び進ちよく 見 込 み	<p>横浜環状南線の供用に合わせ事業を推進する中で、収用手続きにより平成 29 年度に用地取得が完了した、国道 1 号下り線までの区間について、早期に部分供用をする予定です。</p> <p>また、国道 1 号との立体交差部のトンネル施工検討及び、上り線に接続する支線部にある管理型産業廃棄物最終処分場跡地の検討を行い、用地取得と並行しながら施工可能な部分の工事を進めます。</p>	
その他 (コスト縮減項目等)	<p>舗装、構造物の築造等については、設計の段階から可能な限り工事費の縮減に努めるとともに、長寿命化の検討を行い、維持修繕が容易な構造とする等、維持管理費の縮減に努めます。工事施工においても、建設発生土の工事間流用を行い、運搬費及び残土処分費のコスト縮減を行うとともに、舗装、構造物の基礎等について再生材を使用する等、可能な限りコスト縮減に努めます。</p>	
その他	—	
添付資料	有 ・ 無	

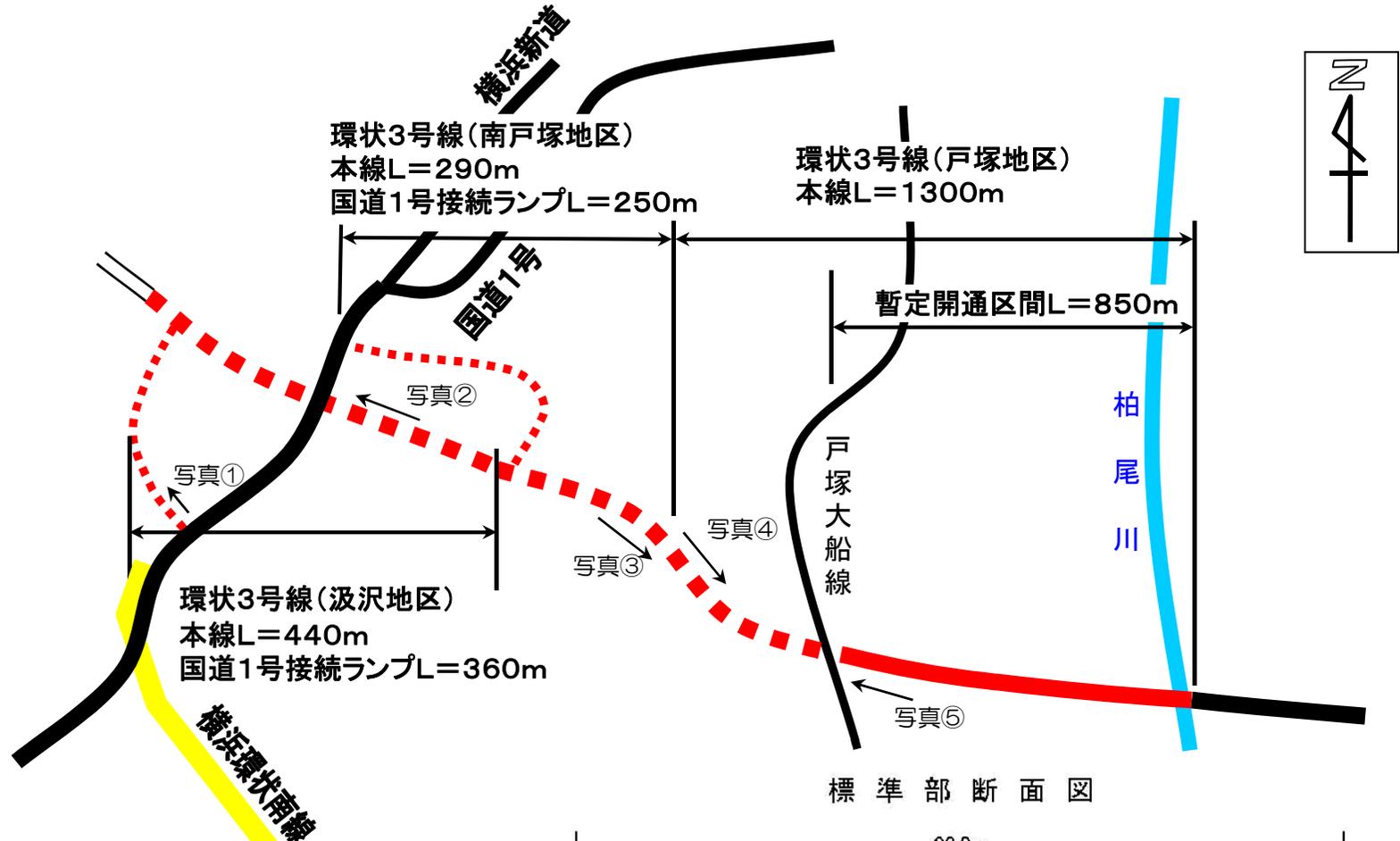
対応方針 (案)		計画通り(上記計画を実施) ※1
	継続	一部見直し(上記計画を変更) ※2
		【見直し内容】
中止		

対応方針 (案) として理由	<p>現在、環状3号線は本市臨海部から本事業箇所までは、整備が完了していますが、湘南方面に連絡する主要道路に接続されていないため、整備効果が十分に発揮されていない状況です。</p> <p>そこで、本事業の実施により、国道1号に接続することで、本市南部地域の交通機能が強化され、沿道地域の活性化や物流の円滑化が期待されます。また、これまで周辺の住宅地域に入り込んでいた通過交通が環状3号線に転換することで、住宅地域における安全性や住環境が向上します。さらに、横浜環状南線（圏央道）の（仮）戸塚ICにアクセスする路線として、ICアクセス性の向上が期待されることから、事業を継続して実施する必要があると判断しています。</p>
-------------------	--

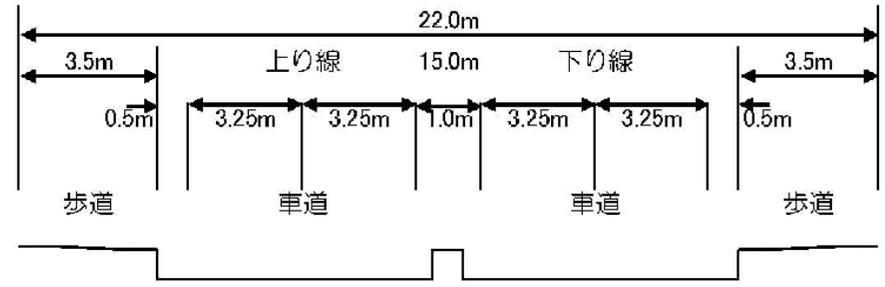
※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

都市計画道路環状3号線(南戸塚地区 外2)



標準部断面図



凡 例	
対象区間	
事業中区間	
完成(概成)区間	
未整備区間	



歩道

事業区域

歩道



BOXカルバート

歩道

歩道

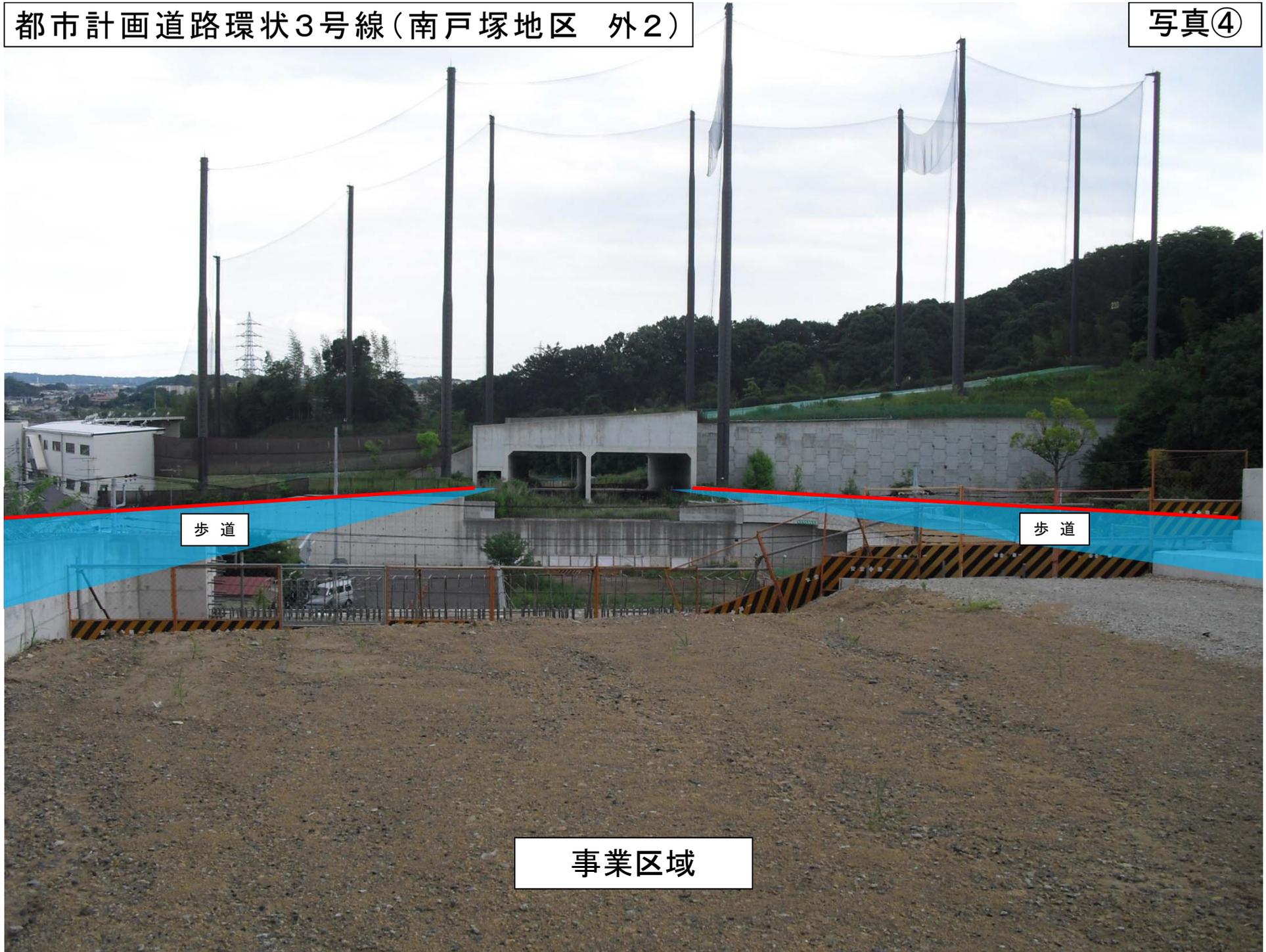
事業区域



事業区域

歩道

歩道



歩道

歩道

事業区域



BOXカルバート

歩道

事業区域

歩道

事業進捗状況

環状3号線（南戸塚地区 外2）

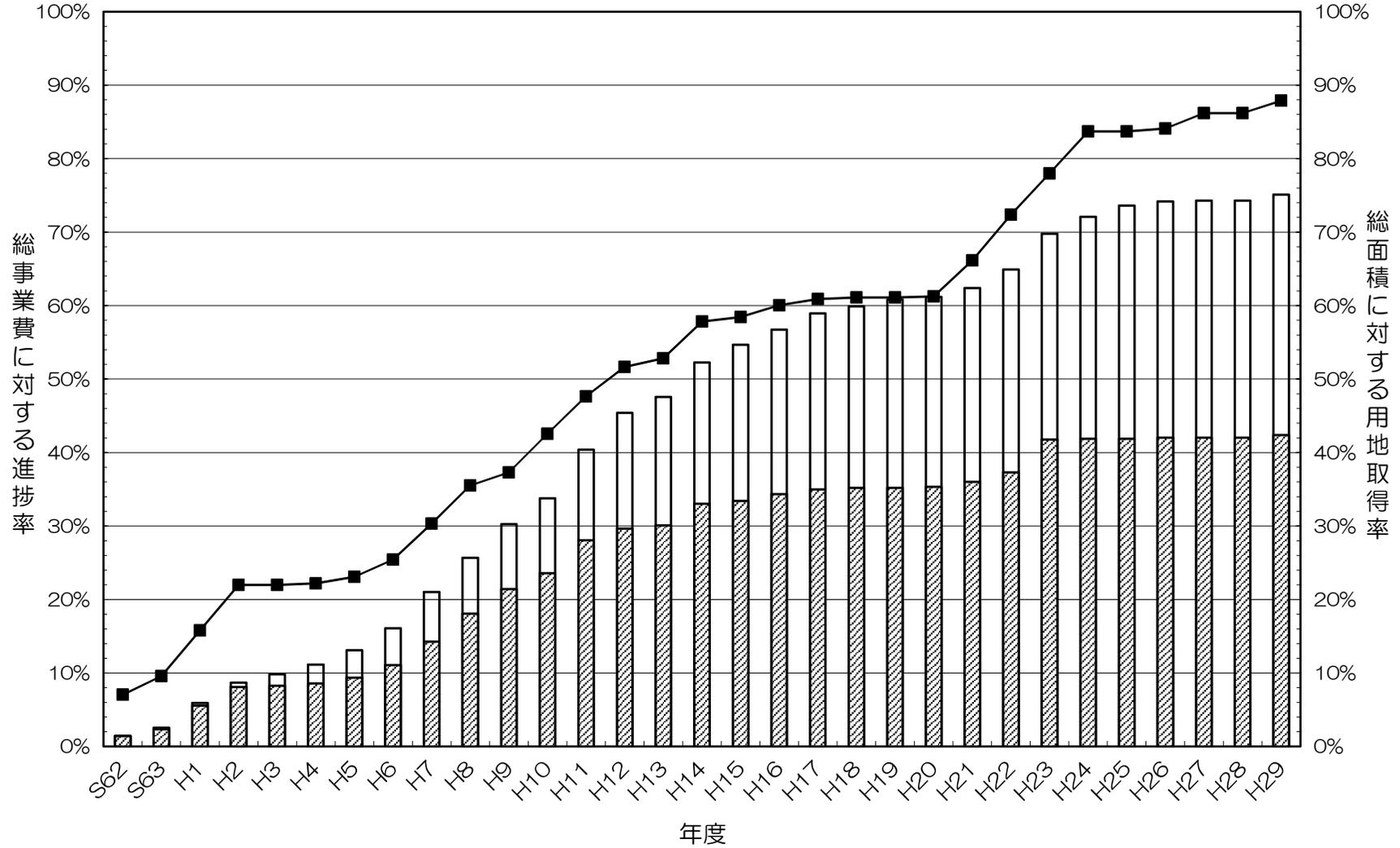
（単位：百万円）

年度	単年度事業費			累計事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計	用地・補償	工事・委託	合計	用地・補償	工事・委託	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率
S62	390	380	10	390	380	10	1.4%	1.4%	0.0%	4,167	4,167	7.0%
S63	302	256	46	692	636	56	2.5%	2.3%	0.2%	1,499	5,666	9.6%
H1	915	880	35	1,607	1,516	91	5.9%	5.6%	0.3%	3,683	9,349	15.8%
H2	753	677	76	2,360	2,193	167	8.7%	8.1%	0.6%	3,658	13,007	22.0%
H3	307	56	251	2,667	2,249	418	9.8%	8.3%	1.5%	0	13,007	22.0%
H4	365	83	282	3,032	2,332	700	11.2%	8.6%	2.6%	126	13,133	22.2%
H5	530	218	312	3,562	2,550	1,012	13.1%	9.4%	3.7%	518	13,651	23.1%
H6	808	460	348	4,370	3,010	1,360	16.1%	11.1%	5.0%	1,381	15,032	25.4%
H7	1,342	866	476	5,712	3,876	1,836	21.0%	14.3%	6.8%	2,906	17,938	30.3%
H8	1,269	1,036	233	6,981	4,912	2,069	25.7%	18.1%	7.6%	3,054	20,992	35.5%
H9	1,241	906	335	8,222	5,818	2,404	30.3%	21.4%	8.8%	1,055	22,047	37.3%
H10	956	593	363	9,178	6,411	2,767	33.8%	23.6%	10.2%	3,113	25,160	42.6%
H11	1,796	1,216	580	10,974	7,627	3,347	40.4%	28.1%	12.3%	3,016	28,176	47.7%
H12	1,367	430	937	12,341	8,057	4,284	45.4%	29.6%	15.8%	2,367	30,543	51.7%
H13	586	114	472	12,927	8,171	4,756	47.6%	30.1%	17.5%	682	31,225	52.8%
H14	1,272	803	469	14,199	8,974	5,225	52.3%	33.0%	19.2%	2,980	34,205	57.8%
H15	656	112	544	14,855	9,086	5,769	54.7%	33.4%	21.2%	358	34,563	58.5%
H16	563	245	318	15,418	9,331	6,087	56.7%	34.3%	22.4%	927	35,490	60.0%
H17	597	173	424	16,015	9,504	6,511	58.9%	35.0%	24.0%	504	35,994	60.9%
H18	265	58	207	16,280	9,562	6,718	59.9%	35.2%	24.7%	144	36,138	61.1%
H19	244	2	242	16,524	9,564	6,960	60.8%	35.2%	25.6%	0	36,138	61.1%
H20	103	38	65	16,627	9,602	7,025	61.2%	35.3%	25.9%	85	36,223	61.3%
H21	326	181	145	16,953	9,783	7,170	62.4%	36.0%	26.4%	2,892	39,115	66.2%
H22	686	352	334	17,639	10,134	7,504	64.9%	37.3%	27.6%	3,672	42,787	72.4%
H23	1,317	1,213	104	18,956	11,348	7,608	69.8%	41.8%	28.0%	3,322	46,109	78.0%
H24	632	30	602	19,588	11,378	8,210	72.1%	41.9%	30.2%	3,378	49,487	83.7%
H25	414	1	413	20,002	11,379	8,623	73.6%	41.9%	31.7%	8	49,495	83.7%
H26	154	39	115	20,156	11,418	8,738	74.2%	42.0%	32.2%	223	49,718	84.1%
H27	27	0	27	20,183	11,418	8,765	74.3%	42.0%	32.3%	1,244	50,962	86.2%
H28	6	0	6	20,189	11,418	8,771	74.3%	42.0%	32.3%	0	50,962	86.2%
H29	222	94	128	20,411	11,512	8,899	75.1%	42.4%	32.7%	1,003	51,965	87.9%
合計	20,411	11,512	8,899							51,965		

※1 事業進捗率（合計）は全体事業費（様式3参照）に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和
 ※2 事業進捗率（用地補償、工事委託）は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合
 ※3 用地取得率は事業全体の取得面積（様式3参照）に占める各年度までの取得面積の割合

事業進捗状況

環状3号線（南戸塚地区 外2）



前回再評価内容との比較 環状3号線（南戸塚地区 外2）

	前回（H25）	今回（H30）	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	東日本大震災の発生により、緊急輸送路の整備が急がれており、特に環状3号線の整備により磯子区の国道16号から国道1号までの本市南部地域の交通機能の強化が期待されることから、本事業の必要性が高まっています。	本路線を介し、国道16号と国道1号が接続されることで、本市臨海部との連絡強化により、災害時の広域的な避難路・緊急輸送路としての機能が期待されています。また本路線は、横浜環状南線（圏央道）のICである（仮）戸塚ICにアクセスする路線であり、ICアクセス性の向上が期待されていることから、事業の必要性が高まっています。	広域的な避難路・緊急輸送路の機能強化及び横浜環状南線の（仮）戸塚ICへのアクセス性向上が期待される環状3号線整備の必要性が高まっています。
事業進捗率	72%（75%）	75%	+3%
用地取得率	84%（83%）	88%	+4%
供用等の状況	暫定開通区間約850m	暫定開通区間約850m	—
事業の進捗見込	本事業に対し地権者の理解が得られないため、用地交渉が難航しており、事業が遅れていますが、今後は収用を進めながら用地取得を行います。 また、用地取得と並行しながら施工可能な部分の工事を進め、特に時間のかかる構造物の築造を行います。 国道1号との接続については、国や警察と協議しながら施工方法を検討して工事を行い、平成29年度に完成する予定です。	横浜環状南線の供用に合わせ事業を推進する中で、収用手続きにより平成29年度に用地取得が完了した、国道1号下り線接続までの区間について、早期に部分供用をする予定です。 また、国道1号との立体交差部のトンネル施工検討及び、上り線に接続する支線部にある管理型産業廃棄物最終処分場跡地の検討を行い、用地取得と並行しながら施工可能な部分の工事を進めます。	戸塚地区において、事業に対し地権者の理解が得られず、用地交渉が難航していましたが、収用手続きを実施し、平成29年度に用地取得をしました。また、施工可能な部分において、補強土壁等の築造を完了させました。
前回委員会での主な意見等	特になし		

※前回再評価から全体事業費が変更されている場合、前回時点での事業進捗率が変化してしまうため、参考として前回使用した事業進捗率を（ ）で示した。

資料②

【道路－2】再評価

市道上大岡第 149・168 号線道路改良事業

(道路局)

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番 号	道路-2	事業担当局課	南区 南土木事務所	
事業名	市道上大岡第149・168号線道路改良事業		採択年度	H20
施工場所	南区大岡三丁目9番地先から大岡五丁目39番地先まで		経過年数	10年
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>本路線は、主要地方道横浜鎌倉の向田橋交差点より、磯子区岡村五丁目へ向かうバス路線となっており、都市計画道路汐見台平戸線の一部となっています。現況幅員が7.0m～7.5mと狭く、バスの通行に支障をきたしているほか、通学路にも指定されていますが、歩道が整備されていないため、歩行者の安全性も損なわれている状況です。このため、車道を拡幅整備し、歩道を設置することで、利用者の安全性と利便性の向上を図るものです。</p> <p>また、「横浜市地震防災戦略」では、都市計画道路汐見台平戸線を延焼遮断帯として位置付けています。</p> <p>事業概要</p> <p>市道上大岡第149・168号線</p> <p>延長：250m、幅員：15m(車道9m 歩道3m×2)、車線数：2 用地面積1,908m²</p>			
			当初(事業採択時)	変更(平成25年度)
	事業期間		平成20年度～平成25年度	平成20年度～平成32年度
	事業費	合計	1,074百万円	1,103百万円
		国費	—	757百万円
		市費	1,074百万円	346百万円
	変更内容	交差点部の視距確保のため、隅切りの形状を変更するとともに、補償額を精査し、事業費を変更しました。		
	上位計画等	横浜市中期4か年計画(2018～2021)の政策20「市民に身近な交通機能等の充実」の施策2で「歩行者の安全確保や地域の利便性の向上」を掲げ、政策34「災害に強い都市づくり」の施策3で「延焼遮断帯の形成などにより、地震火災に強い都市づくりを進めます」としています。本事業では、歩道整備により歩行者の安全性を向上させ、また、車道の拡幅整備を行うことで、交通混雑を緩和し、加えて、延焼遮断帯の形成を図ります。		
	関連事業	本事業と同一の都市計画道路汐見台平戸線では、市道平戸第486号線(別所地区)、(別所地区(その2))、汐見台平戸線(大岡地区)、市道蒔田第480号線にて同様の拡幅事業を進めています。		

事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>都市計画道路汐見台平戸線は、本事業区間以外でも他事業により拡幅整備を進めており、既に拡幅が完了している部分もあります。</p> <p>また、本路線は「横浜市地震防災戦略における地震火災対策方針」において、地震火災対策重点路線に位置付けており、「横浜市地震防災戦略」では、当該重点路線を延焼遮断帯として整備を推進しています。</p> <p>加えて、スクールゾーン協議会からも歩道の整備を強く望まれています。</p>		
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)		事業全体	残事業
		割引率	4% (2%)	
		総便益(B)	19.4 億円 (29.8 億円)	—
		総費用(C)	10.4 億円 (9.6 億円)	—
		費用便益比 (B/C)	1.9 (3.1)	—
		感度分析 [交通量-10%]	1.0 (1.6)	—
		<p>[定性的効果]</p> <p>本事業区間は歩道が整備されていないため、歩道を整備することで歩行者の安全性が向上します。また、車道の拡幅整備を行うことで、交通混雑の緩和が図れ、バスの定時性向上に寄与します。加えて、延焼遮断帯としての役割も期待されます。</p> <p>[その他特記事項]</p>		

事業の 進捗よ く状 況	事業進捗よ く率%	<p>平成 29 年度末までの用地取得率は約 29%、事業進捗率は約 31%となっています。</p> <p>用地取得が完了している部分については、歩行者の安全を確保するため、暫定的な歩道整備を行っています。</p> <p>引き続き、用地取得を進めるとともに、取得が完了次第、工事に着手します。</p>
	31%	
	用地取得率%	
	29%	
	供用等の状況	
	—	
事業の課題 及び進捗よ く見込み	<p>用地取得には移転先の確保や建築工事が必要となるため、地権者の理解が得られず、多くの時間を要していましたが、用地取得の進捗よくとともに残地権者の事業に対する理解も進み、今年度は3件の契約と2件の価格提示を行っています。また、用地取得に向け、3件の測量作業に入ります。</p> <p>既取得部分における歩道の暫定整備により、地元の事業効果についての理解も進んでいることから事業の進捗が図れるものと考えています。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<p>設計の際にコストを意識した施工方法の検討を行うとともに、舗装の材料に再生材を使用するなど、可能な限りコスト削減に努めます。</p>	

その他	—	
添付資料	有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/>	
対応方針 (案)	継続 <input type="checkbox"/>	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2
	【見直し内容】	
中止 <input type="checkbox"/>		

対応方針 (案) として理由	<p>本路線は、都市計画で位置付けられていることから、本市における広域的な交通ネットワークの一部を担う路線であるとともに、延焼遮断帯として火災に強い都市空間の形成にも寄与する路線となっております。</p> <p>また、本事業区間と同一路線の隣接区間約300mは既に拡幅整備が完了していますが、本事業区間はバス路線にもかかわらず、車道幅員が狭いため、車両の円滑な通行に支障をきたしているとともに、歩道も整備されていないため、歩行者の安全性も損なわれている状況です。</p> <p>本事業の整備により、車道の拡幅と歩道整備を行うことで、交通の円滑化、バス運行の定時性向上、歩行者の安全の確保が図れるものと考えており、事業を継続して実施する必要があると判断しています。</p>
-------------------	---

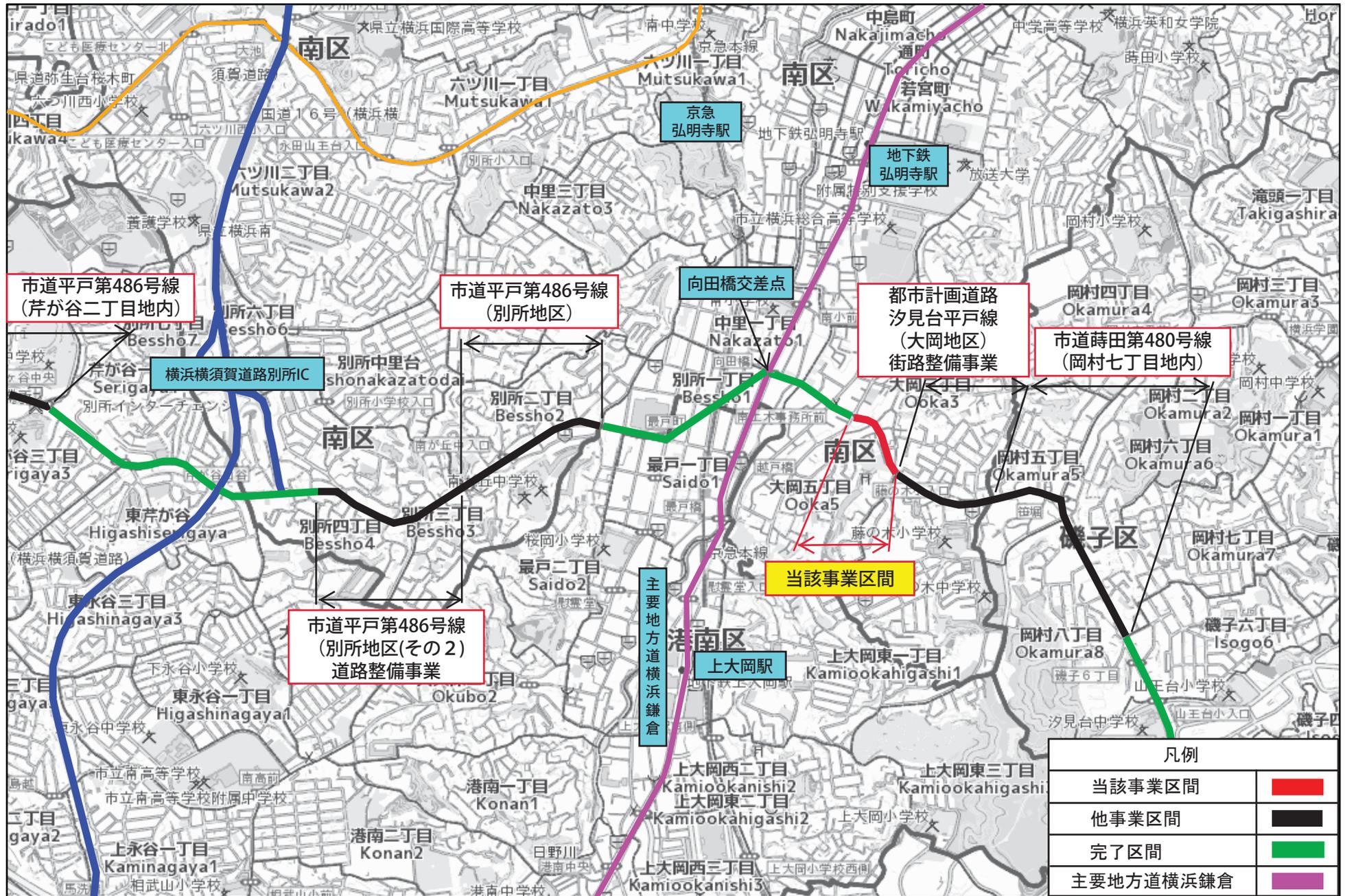
※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

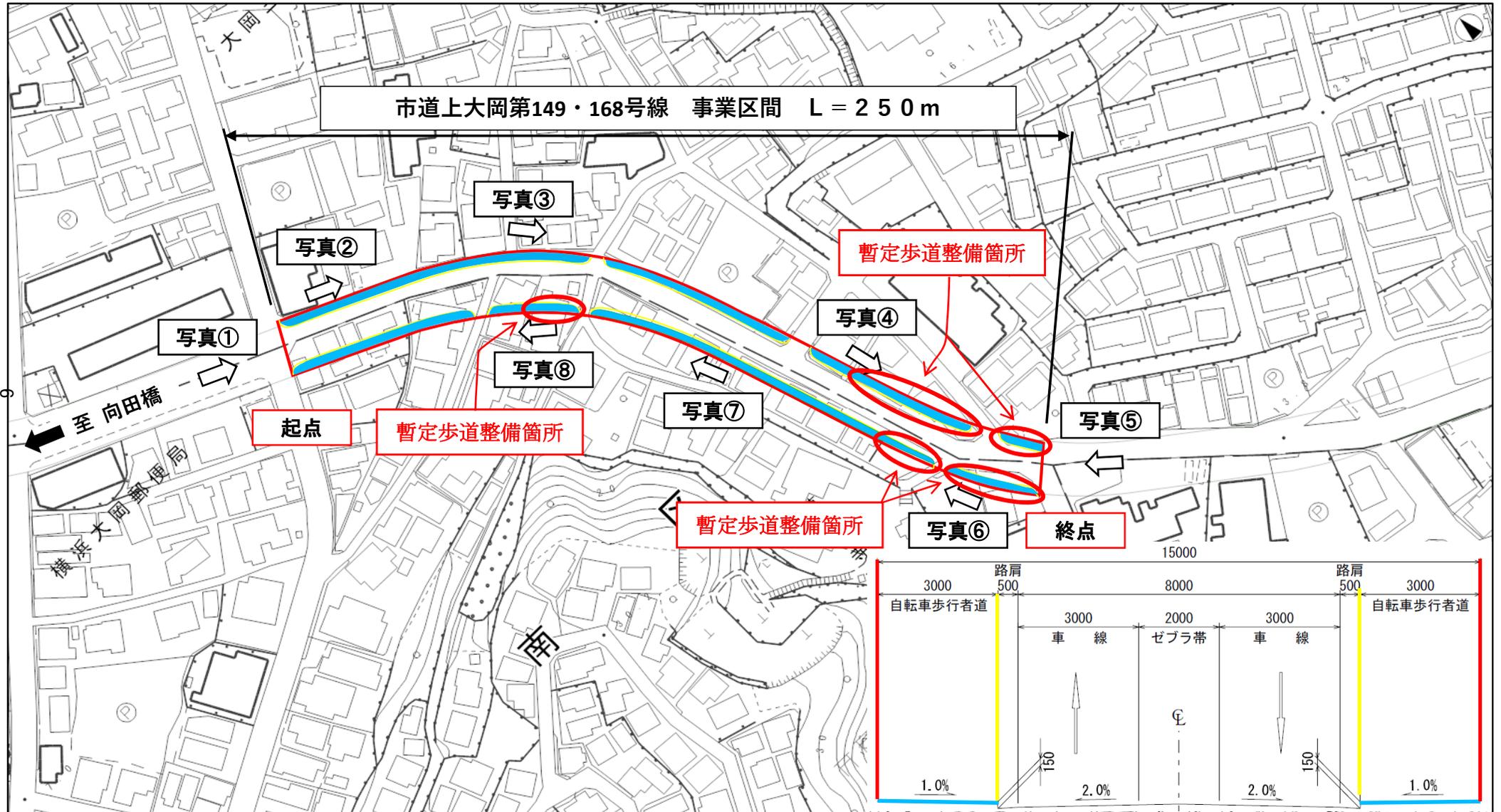
位置図



市道上大岡第149・168号線



市道上大岡第149・168号線道路改良事業



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真①



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真②



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真③



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真④



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真⑤



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真⑥



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真⑦



市道上大岡第149・168号線道路改良事業 写真⑧



前回再評価内容との比較

	前回（H25）	今回（H30）	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>本路線は、都市計画決定されており、地震防災戦略において延焼遮断帯としても位置付けています。また、各地区において関連事業による拡幅整備が進められています。</p> <p>スクールゾーン協議会からは歩道の整備を強く望まれています。</p>	<p>当該区間は通学路となっていますが、歩道が整備されておらず、歩行者の安全性の確保に課題があり、スクールゾーン協議会からも歩道の整備を引き続き要望されています。</p>	<p>本路線での用地取得率は29%です。用地取得部分については、平成26年度に交差点の一部を拡幅整備を行うとともに、歩行者の安全を確保するため、歩道の暫定整備を行っています。</p>
事業進捗率	8%（9%）	31%	+23%
用地取得率	4%（4%）	29%	+25%
供用等の状況	—	— （既取得部分における歩道の暫定整備）	—
事業の進捗見込	<p>境界確定等に時間を要していましたが、平成24年度に2件の用地取得を行いました、平成25年度も1件の用地取得を行いました。</p> <p>平成26年度には交差点の一部を拡幅整備する予定です。</p>	<p>用地取得には移転先の確保や建築工事が必要となるため、地権者の理解が得られず、多くの時間を要していましたが、用地取得の進ちょくとともに残地権者の事業に対する理解も進み、今年度は3件の契約と2件の価格提示を行っております。また、用地取得に向け、3件の測量作業に入ります。</p>	<p>用地取得率は前回と比べ25%進んでおり、着実に事業進捗が図られているものと考えています。</p> <p>また、既取得部分における歩道の暫定整備により、地元の事業効果についての理解も進んでいることから今後の事業進捗も図れるものと考えています。</p>

※前回再評価から全体事業費が変更されている場合、前回時点での事業進捗率が変化してしまうため、参考として前回使用した事業進捗率を（ ）で示した。

事業進捗状況

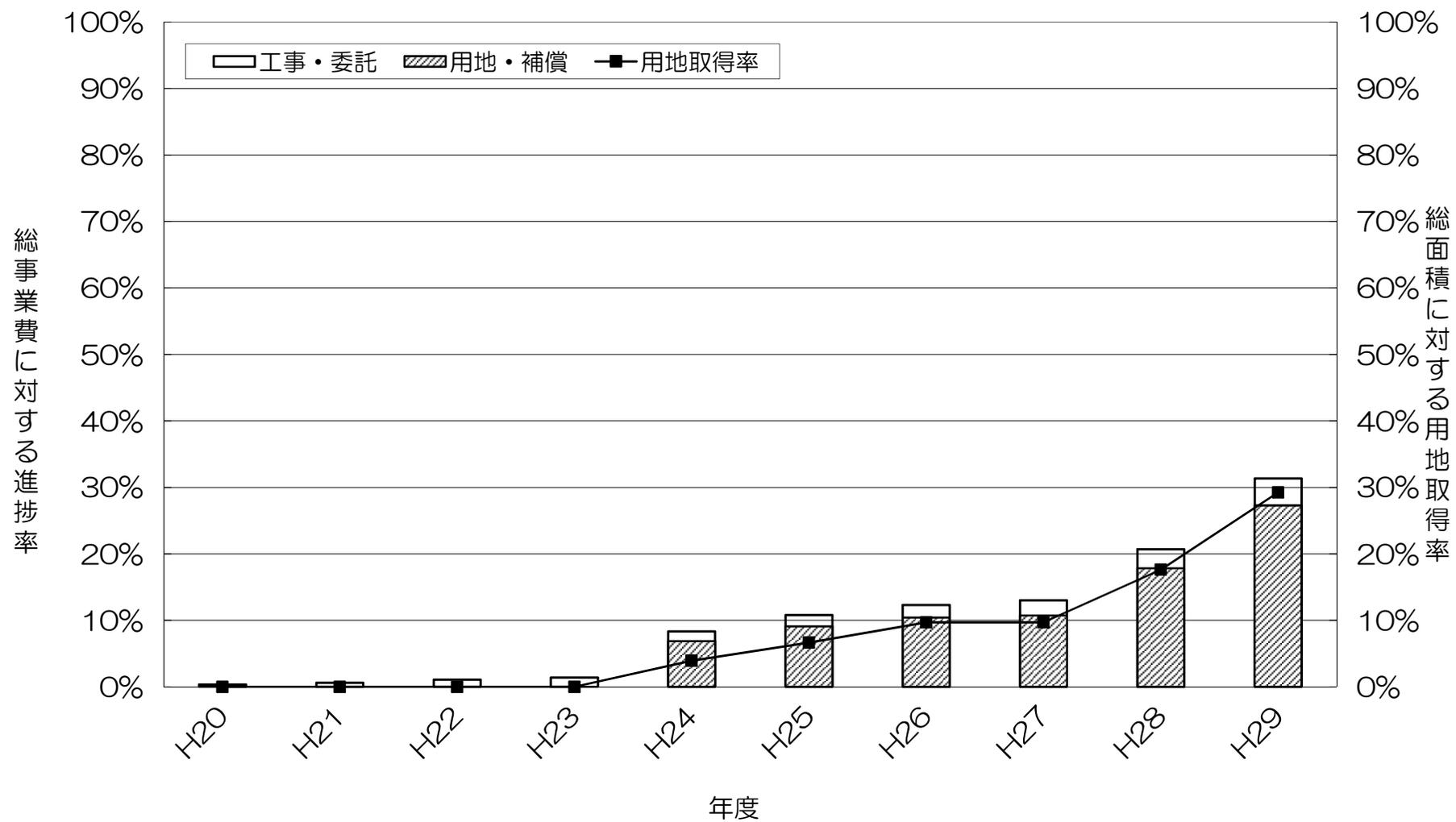
市道上大岡第149・168号線

(単位：百万円)

年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計※1	用地・補償※2	工事・委託※2	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率※3
H20	4	0	4	0.3%	0.0%	0.3%	0	0	0.0%
H21	3	0	3	0.6%	0.0%	0.6%	0	0	0.0%
H22	5	0	5	1.1%	0.0%	1.1%	0	0	0.0%
H23	3	0	3	1.4%	0.0%	1.4%	0	0	0.0%
H24	77	76	1	8.3%	6.9%	1.5%	75	75	3.9%
H25	27	24	3	10.8%	9.1%	1.7%	52	127	6.7%
H26	17	14	2	12.3%	10.4%	1.9%	58	185	9.7%
H27	8	3	4	13.0%	10.7%	2.3%	0	185	9.7%
H28	85	79	6	20.7%	17.8%	2.8%	151	336	17.6%
H29	118	104	13	31.4%	27.3%	4.1%	222	558	29.2%
合計	346	301	45				558		

- ※1 事業進捗率（合計）は全体事業費（様式3参照）に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和
- ※2 事業進捗率（用地補償、工事委託）は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合
- ※3 用地取得率は事業全体の取得面積（様式3参照）に占める各年度までの取得面積の割合

事業進捗状況 市道上大岡第149・168号線



【道路－3】再評価

県道瀬谷柏尾（本郷その2地区）道路改良事業

（道路局）

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番 号	道路—3	事業担当局課	瀬谷区 瀬谷土木事務所	
事業名	県道瀬谷柏尾（本郷その2地区）道路改良事業		採択年度	H18
施工場所	瀬谷区本郷一丁目、二丁目		経過年数	12年
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>県道瀬谷柏尾は、瀬谷区を南北に縦断する主要幹線道路で瀬谷区北西部では国道246号、大和市等から相鉄線瀬谷駅方面へのアクセス道路として重要な役割を担っている路線です。</p> <p>しかし、当該事業路線延長300m区間においては道路幅員が5.5m～7.0m程度と狭く、バス運行のすれ違いに支障をきたしており、また歩道未設置区間のため歩行者通行による渋滞の原因となっております。大門小学校の学区内通学路として通学児童等、歩行者の安全確保、車両の渋滞解消を目的として両側に歩道設置し道路整備を行うものです。</p> <p>事業概要</p> <p>県道瀬谷柏尾（本郷その2地区） 延長300m 幅員11m（車道7m 歩道2m×2）用地面積1,500m²</p>			
			当初(事業採択時)	変更(平成27年度)
	事業期間		H18～H22	H18～H32
	事業費	合 計	668 百万円	978 百万円
		国 費	—	610 百万円
		市 費	668 百万円	368 百万円
	変更内容	用地交渉に時間を要しているため事業期間を延伸し、補償費についても精査し事業費を変更しました。		
	上位計画等	<p>横浜市中期4か年計画（2018～2021）の政策20「市民に身近な交通機能等の充実」の施策2で「歩行者の安全確保や地域の利便性の向上」を掲げています。</p> <p>本事業区間は、相鉄線瀬谷駅へのバス路線であり、歩道設置や車道整備により渋滞解消、バス運行定時制の確保、歩行者の安全性の向上を図るものです。</p>		
関連事業	—			
事業の 必要性	事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>近年、この地域は宅地開発が進み、住宅が多く建設されております。</p> <p>また、平成27年6月に旧上瀬谷通信施設が米軍から返還、平成28年3月に市道環状4号線上瀬谷地区の開通、瀬谷駅南口市街地再開発事業や二ツ橋北部土地区画整理事業の開始等、地域を取り巻く社会情</p>		

		勢の変化があり、今後交通量の増加が見込まれるため、地元住民から歩道設置が強く要望されております。		
事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)			事業全体	残事業
		割引率	4% (2%)	
		総便益(B)	24.4 億円 (36.5 億円)	—
		総費用(C)	11.8 億円 (9.9 億円)	—
		費用便益比 (B/C)	2.1 (3.7)	—
		感度分析 [交通量-10%]	1.4 (2.5)	—
	<p>[定性的効果]</p> <p>当該路線は、大門小学校の学区内通学路になっておりますが、道路状況が悪いため迂回ルートを通学路として利用しているところですが、歩道設置により、歩行者の安全確保と歩車分離により渋滞が解消し、バス運行の定時制が確保されます。</p> <p>[その他特記事項]</p>			

事業の 進ちよく 状 況	事業進ちよく率%	平成 29 年度末までの用地取得率は 79.4%、事業進捗率 78.2%となっています。 県道瀬谷柏尾（本郷その1地区）で、環状 4 号線から延長 500mの拡幅整備を平成 19 年度に完了しております。
	79%	
	用地取得率%	
	78%	
	供用等の状況	
事業の課題 及び進ちよく 見 込 み	<p>用地取得に時間を要しておりますが、関係地権者との交渉では理解を得ております。</p> <p>移転先等の候補地に時間を要しますが、取得済み用地を暫定歩道として供用しており、部分的に歩道整備も行い整備効果は得られております。</p> <p>残りの用地取得件数は 5 件であり、平成 30 年度に 1 件、平成 31 年度に 3 件、平成 32 年度に 1 件取得見込みです。平成 32 年度を目途に完成を目指します。</p>	
そ の 他 (コスト縮減項目等)	設計時に路床改良も含め最も経済的な舗装構成の検討を行うとともに、舗装の材料に再生材を使用するなど可能な限りコスト縮減に努めます。	

その他	-	
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	
対応方針 (案)	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	計画通り(上記計画を実施) ※ 1
		一部見直し(上記計画を変更) ※ 2
	【見直し内容】	
中 止		

対応方針 (案) として 理由	<p>本事業区間は、県道瀬谷柏尾で瀬谷区内の北西部地域と相鉄線瀬谷駅を結ぶバス路線ですが、朝夕は渋滞が発生し、歩行者の安全も脅かされている状況になっています。</p> <p>そこで、道路整備により歩行者の安全確保、バス運行の定時制の確保、並びに車両の渋滞解消を図るため、事業を継続し実施する必要があると判断しています。</p>
-----------------------	---

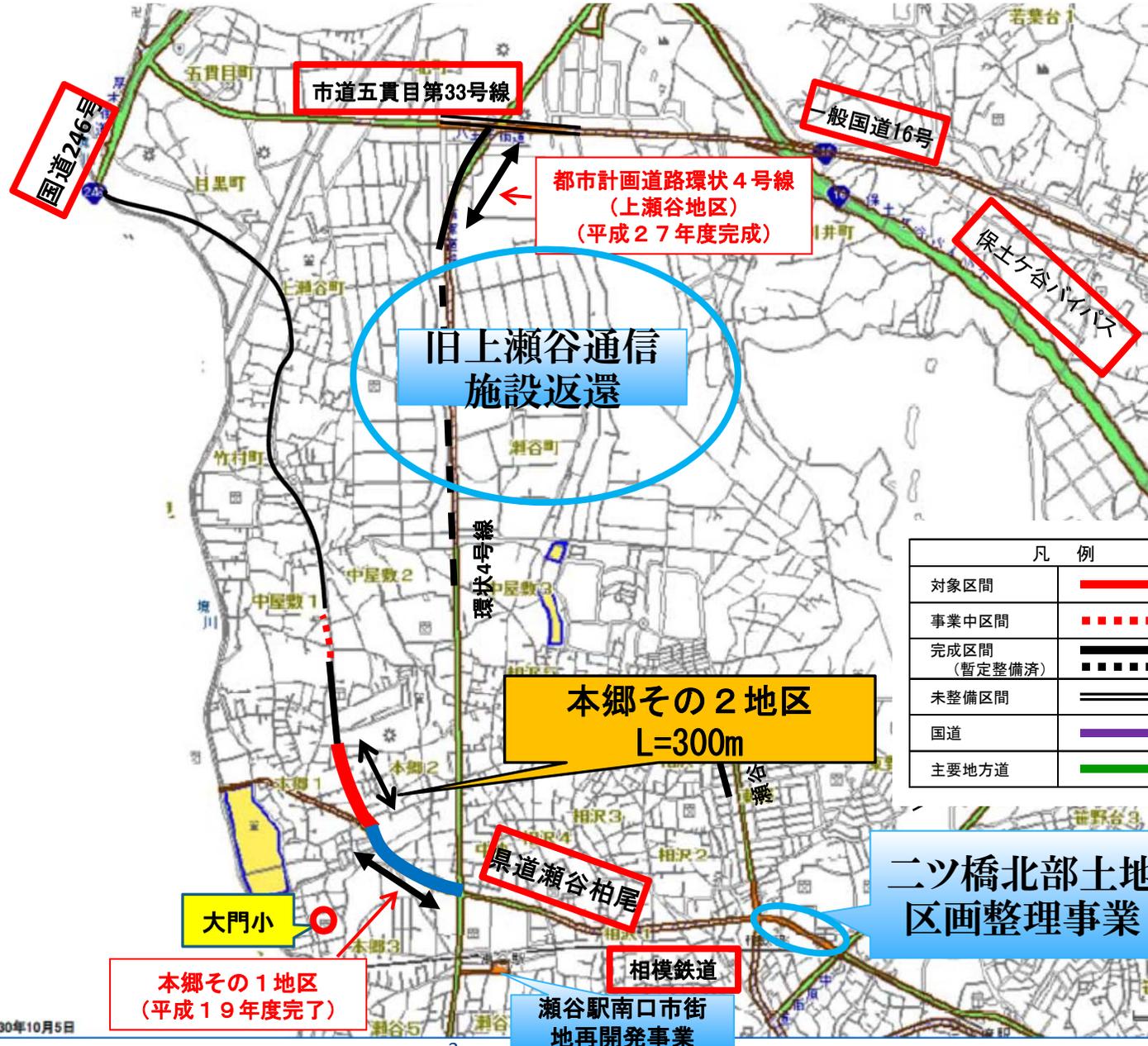
※ 1 : 既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※ 2 : 今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

位置図



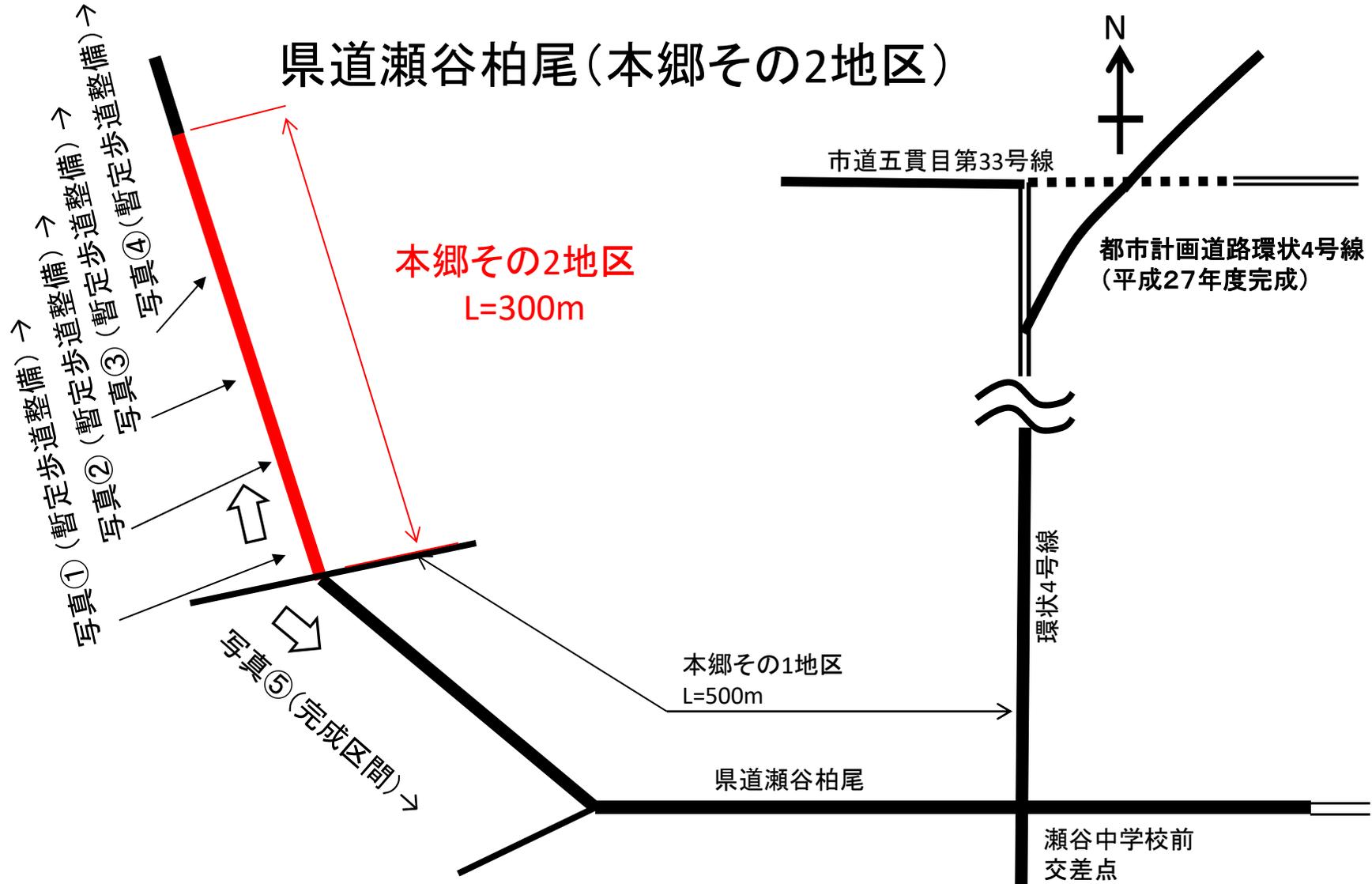
県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)



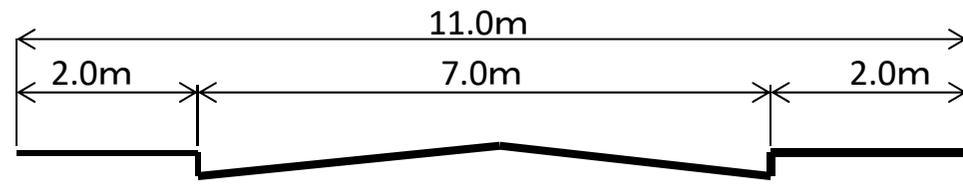
この地図の著作権は横浜市が保有します。平成30年10月5日

5

県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)



標準断面図



凡 例	
対象区間	
事業中区間	
完成(構成)区間	
未整備区間	

計画平面図

歩道未整備区間

暫定歩道整備区間

歩道未整備区間

130m

本郷十字路



県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)写真①暫定歩道整備



県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)写真②暫定歩道整備



県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)写真③ 暫定歩道整備



県道瀬谷柏尾(本郷その2地区)写真④ 暫定歩道整備



県道瀬谷柏尾(本郷その1地区)写真⑤ 完了区間



前回再評価内容との比較

	前回 (H25)	今回 (H30)	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>近年、この地域は工場移転・規模縮小に伴う開発が進み、住宅が多く建設されています。</p> <p>また、環状4号線（上瀬谷地区）の都市計画道路整備の実施に伴い、交通流入が増加するものと思われます。地元からの歩道設置要望が強く望まれています。</p>	<p>近年、この地域は宅地開発が進み、住宅が多く建設されています。</p> <p>また、平成27年6月に旧上瀬谷通信施設が米軍から返還、平成28年3月に市道環状4号線上瀬谷地区の開通、瀬谷駅南口市街地再開発事業や二ツ橋北部土地区画整理事業の開始等、地域を取り巻く社会情勢の変化があり、今後交通量の増加が見込まれるため、地元住民から歩道設置が強く望まれています。</p>	<p>平成27年6月に旧上瀬谷通信施設が米軍から返還、平成28年3月に市道環状4号線上瀬谷地区の開通、瀬谷駅南口市街地再開発事業や二ツ橋北部土地区画整理事業開始等、近年、この地域は宅地開発が進み、住宅が多く建設されており、今後交通量の増加が見込まれます。</p>
事業進捗率	56% (71%)	79%	+23%
用地取得率	66% (76%)	78%	+12%
供用等の状況	0m	130m供用中	130m
事業の進捗見込	<p>用地取得に時間を要しておりますが、関係地権者との交渉では理解を得ております。</p> <p>移転先等の候補地に時間を要しますが、取得済み用地を暫定歩道として供用しており整備効果は得られています。</p> <p>平成29年度を目途に完成を目指します。</p>	<p>用地取得に時間を要しておりますが、関係地権者との交渉では理解を得ております。</p> <p>移転先等の候補地に時間を要しますが、取得済み用地を暫定歩道として供用しており、部分的に歩道整備も行い整備効果は得られています。</p> <p>残りの用地取得件数は5件であり、平成30年度に1件、平成31年度に3件、平成32年度に1件取得見込みです。平成32年度を目途に完成を目指します。</p>	<p>地元やスクールゾーン・防犯対策協議会から通学路の安全対策として歩道設置・歩道拡幅が強く要望されており、取得した用地については暫定的に歩道を設置・拡幅整備しています。</p>

※前回再評価から全体事業費が変更されている場合、前回時点での事業進捗率が変化してしまうため、参考として前回使用した事業進捗率を（ ）で示した。

事業進捗状況

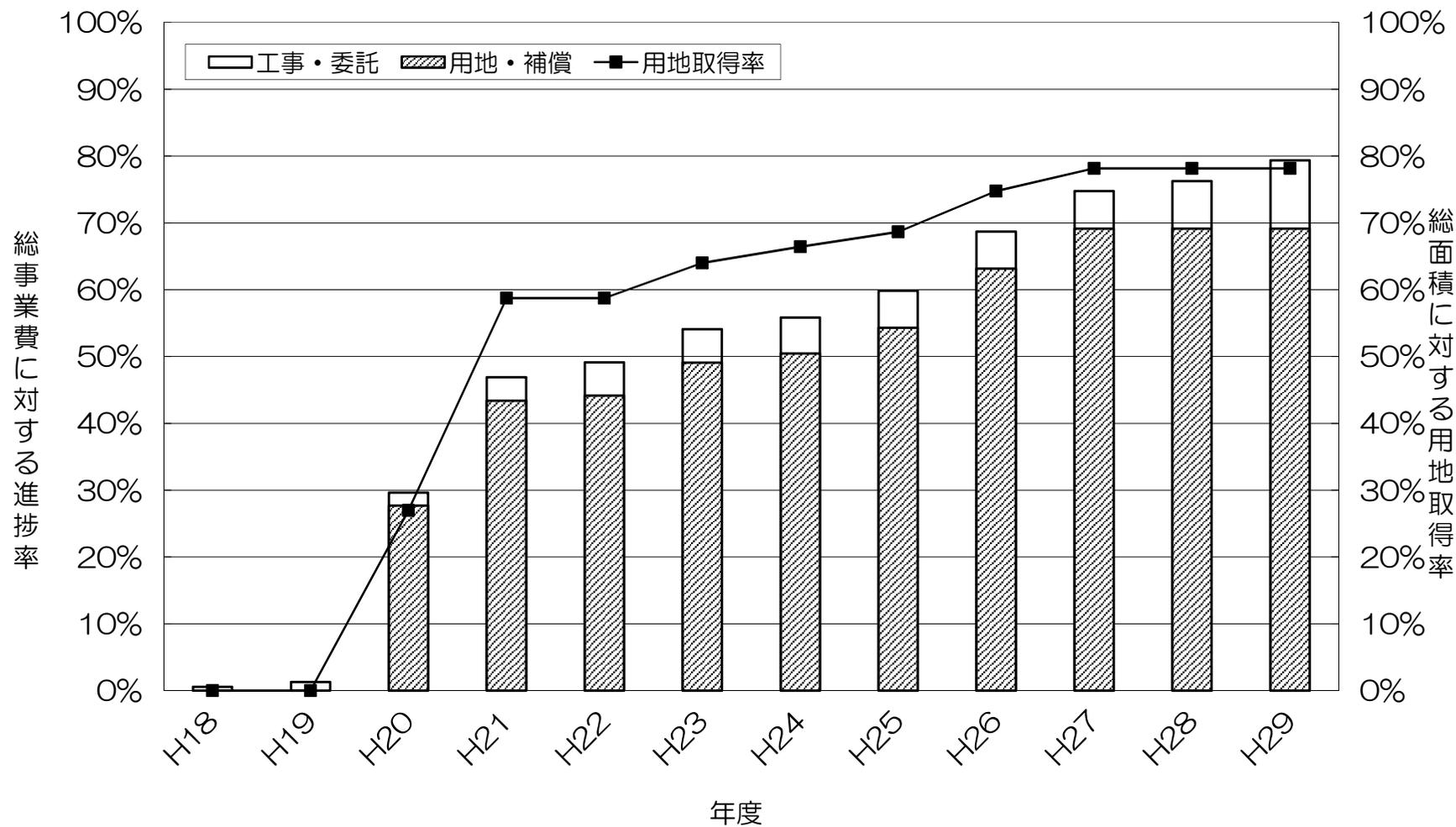
県道瀬谷柏尾（本郷その2地区）

(単位：百万円)

年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計※1	用地・補償※2	工事・委託※2	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率※3
H18	5	0	5	0.6%	0.0%	0.6%	0	0	0.0%
H19	7	0	7	1.3%	0.0%	1.3%	0	0	0.0%
H20	277	271	6	29.6%	27.7%	1.9%	405	405	27.0%
H21	169	154	15	46.9%	43.4%	3.5%	477	881	58.7%
H22	22	7	15	49.1%	44.1%	5.0%	0	881	58.7%
H23	48	48	0	54.1%	49.1%	5.0%	79	960	64.0%
H24	17	13	4	55.8%	50.4%	5.4%	36	997	66.4%
H25	39	38	1	59.8%	54.3%	5.5%	33	1,030	68.7%
H26	87	87	0	68.7%	63.2%	5.5%	91	1,121	74.7%
H27	59	58	1	74.8%	69.1%	5.7%	51	1,172	78.2%
H28	15	0	15	76.3%	69.1%	7.1%	0	1,172	78.2%
H29	30	0	30	79.4%	69.1%	10.2%	0	1,172	78.2%
合計	776	676	100				1,172		

- ※1 事業進捗率（合計）は全体事業費（様式3参照）に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和
- ※2 事業進捗率（用地補償、工事委託）は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合
- ※3 用地取得率は事業全体の取得面積（様式3参照）に占める各年度までの取得面積の割合

事業進捗状況 県道瀬谷柏尾（本郷2）



【道路－４】再評価

主要地方道横浜生田（新羽町地内）道路改良事業

（道路局）

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番 号	道路—4	事業担当局課	港北区 港北土木事務所		
事業名	主要地方道横浜生田（新羽町地内）道路改良事業		採択年度	H18	
施工場所	港北区新羽町		経過年数	11年	
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>港北区新羽町地内を通過する主要地方道横浜生田は、県道川崎町田と新横浜元石川線を南北に結ぶ幹線道路ですが、バス路線や通学路でもあり、地域住民の生活に密着した道路として利用されています。また、平成29年3月には横浜環状北線及び関連街路長島大竹線が供用開始され、周辺の交通状況に大きな変化が生じています。また、横浜環状北西線は東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指して整備が進められていることから、さらなる交通状況の変化が見込まれます。</p> <p>現在通学路でありながら大部分に歩道がないこと、道路の見通しが悪いことなどから、バスの走行性の確保、車両通行の円滑化及び歩車道分離による周辺住民の安全性・利便性の向上を図るため、バスベイの設置、歩道整備及び交差点改良を行うものです。</p> <p>工事概要</p> <p>延長 325m 幅員 9m(車道7m 歩道2m) バスベイ 1箇所 用地面積 460m²</p>				
			当初(事業採択時)	変更(平成28年度)	
	事業期間		平成18～22年度	平成18～33年度	
	事業費	合 計		225百万円	312百万円
		国 費		—	—
		市 費		225百万円	312百万円
	変更内容	バスベイの設置箇所を考慮し、事業区間を延伸した。 諸経費や労務単価の増加などから事業費の見直しを行った。			
上位計画等	<p>横浜市中期4か年計画(2018～2021)の政策20「市民に身近な交通機能等の充実」の施策2で「歩行者の安全確保や地域の利便性向上」を掲げています。</p> <p>本事業区間は、バス路線であり、通学路でもあるため、交差点改良や歩道設置、バスベイの設置により、車両通行の円滑化、歩行者の安全性の向上を図るものです。</p>				
関連事業	横浜環状北線及び関連街路長島大竹線が平成28年度に供用開始された。				
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>近年、通学中の児童を巻き込んだ痛ましい事故が多数発生しており、通学路等に対する安全対策の向上は学校関係者だけではなく、地域住民の皆様からの要望としても年々増加しています。</p> <p>従前より課題であった歩道未整備区間については、危険性があると懸念され、地域住民の皆様から歩道整備の強い要望をいただいています。</p>			

事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)			事業全体	残事業
	割引率		4% (2%)	
	総便益(B)		4.6 億円 (7.2 億円)	—
	総費用(C)		3.5 億円 (3.1 億円)	—
	費用便益比 (B/C)		1.3 (2.3)	—
	感度分析 [交通量-10%]		1.0 (1.7)	—
	<p>[定性的効果]</p> <p>当該道路は、新羽小学校・中学校の通学路として利用されていますが、歩道幅員を十分に確保できていません。歩道拡幅、バスベいの設置及び交差点改良を行うことにより通学児童など歩行者等の安全性が大幅に向上します。</p> <p>[その他特記事項]</p>			

事業の 進ちよく 状 況	事業進ちよく率%	平成 29 年度末までの事業進捗率は60.1%、用地取得率は76.5%となっています。平成 26 年度に交差点改良工事が完成し、一部歩道整備を行いました。平成 30 年度に北側(南台町バスベイ付近)の歩道拡幅工事を施工しています。同時に、南側地権者への用地交渉を進めています。
	60%	
	用地取得率%	
	77%	
	供用等の状況	
	—	
事業の課題 及び進ちよく 見 込 み	<p>関係する南東側地権者(現在歩道未整備区間)の方との交渉に時間を要しています。片側、両側に歩道を作る形態を提示し、用地交渉を進めています。また、現在仮移設している南台町バスベいの整備について町内会と協議中です。平成 30 年度の歩道拡幅工事の完成により事業に対する理解が得られると考えており、今後事業に合意されていない地権者との交渉や用地取得を進め、平成 33 年度の完成を目指します。</p>	
その他 (コスト縮減項目等)	<p>設計時にコストを意識した施工方法の検討を行うとともに、舗装の材料に再生材を使用するなど可能な限りコスト縮減に努めます。</p>	
その他	—	
添付資料	有 ・ 無	

対応方針 (案)		計画通り(上記計画を実施)※1
	継続	一部見直し(上記計画を変更)※2
		【見直し内容】
中止		

対応方針 (案) として 理由	<p>本事業区間は、地域住民の生活に密着した道路であるが、バスベイが無く道路の見通しが悪く、歩道幅員が不十分であるため、車両や歩行者の円滑な通行に支障をきたしています。車両交通の円滑化及び歩行者の安全確保のため、事業を継続して実施する必要があると判断しています。</p>
-----------------------	---

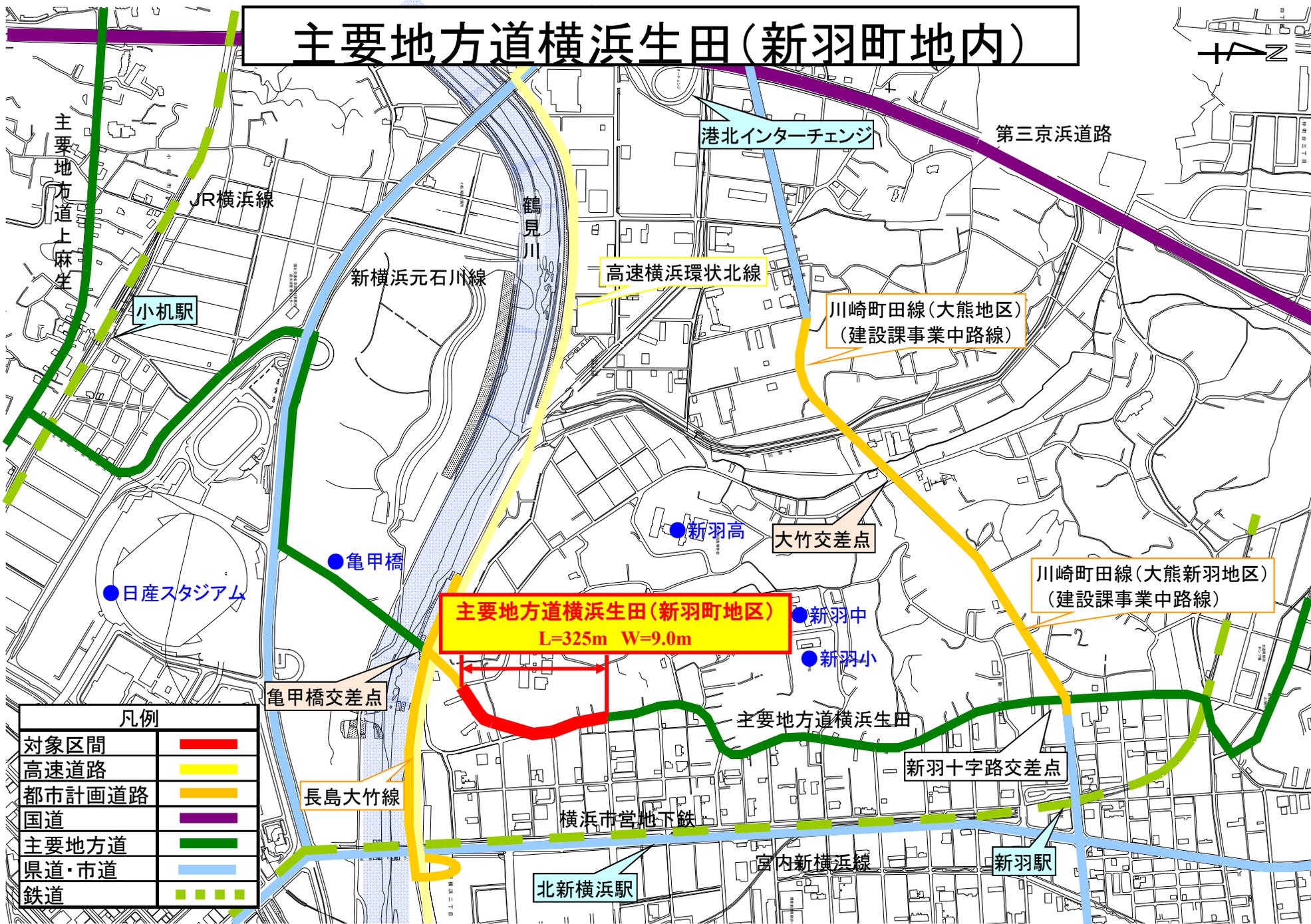
※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

位置图



主要地方道横浜生田(新羽町地内)

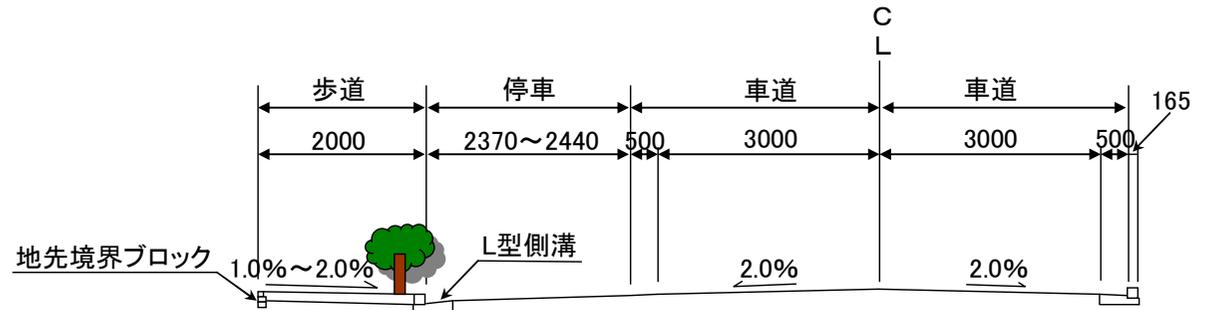


主要地方道横浜生田(新羽町地区)
L=325m W=9.0m

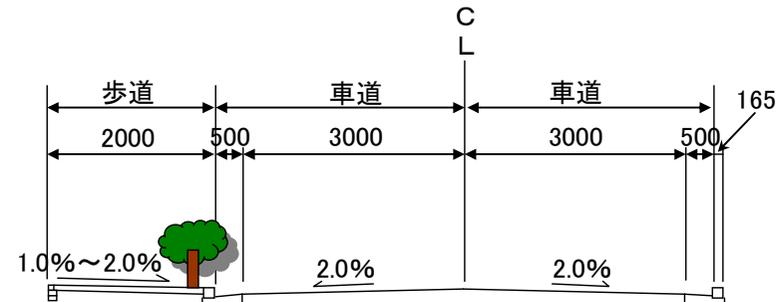
凡例	
対象区間	— (Red line)
高速道路	— (Yellow line)
都市計画道路	— (Orange line)
国道	— (Purple line)
主要地方道	— (Green line)
県道・市道	— (Blue line)
鉄道	- - - (Dashed green line)

主要地方道横浜生田(新羽町地内)

バス停車帯部



標準断面図



主要地方道横浜生田(新羽町地内)
L=325m

先行整備(歩道含む交差点改良) 計画バス停車部 L=53.9m

バス停(予定)

交差点改良部

写真-1

写真-3

写真-4

写真-5、6

写真-2

凡例	
対象区間	█
施工中区間	█
完了区間	█
主要地方道	█

主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-1)

歩道設置

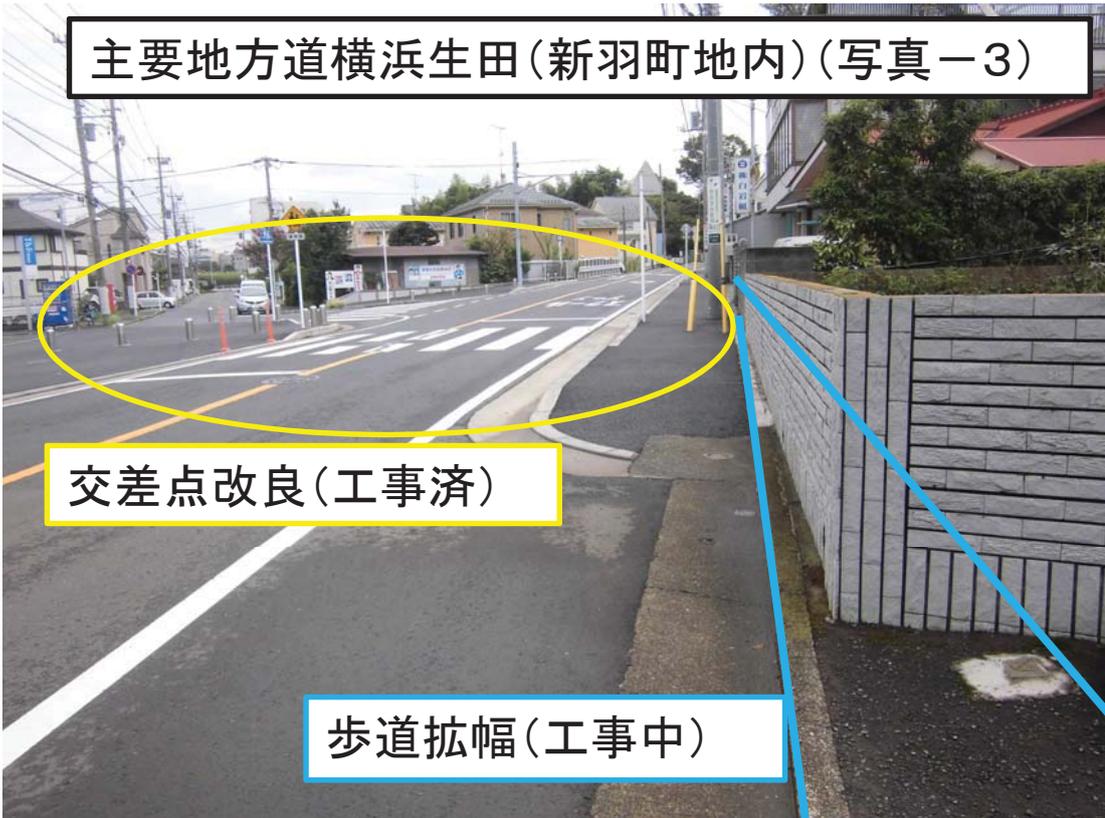


主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-2)

バスベイ整備予定



主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-3)



交差点改良(工事済)

歩道拡幅(工事中)

主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-4)



バスベイ未整備

歩道拡幅(工事中)

主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-5)



歩道拡幅(工事前)

主要地方道横浜生田(新羽町地内)(写真-6)



歩道拡幅(工事中)

前回再評価内容との比較

	前回 (H25)	今回 (H30)	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	平成 28 年度には横浜環状北線及び関連街路長島大竹線が供用開始されるため、交通量増加が見込まれています。従前より課題であった歩道未整備区間については、危険性が増すと懸念され、地域住民の皆様から歩道整備の強い要望をいただいています。	近年、通学中の児童を巻き込んだ痛ましい事故が多数発生しており、通学路等に対する安全対策の向上は学校関係者だけではなく、地域住民の皆様からの要望としても年々増加しています。 従前より課題であった歩道未整備区間については、危険性があると懸念され、地域住民の皆様から歩道整備の強い要望をいただいています。	平成 28 年度に横浜環状北線及び関連街路長島大竹線が供用開始され、交通状況に大きな変化。
事業進捗率	29.8%	60.1%	+30.3%
用地取得率	28.6%	76.5%	+47.9%
供用等の状況	—	交差点部供用中	交差点部の供用開始
事業の進捗見込	関係する地権者の方との交渉に時間を要していますが、交差点付近の南側用地（3 地権者、4 筆）を、重点的に用地取得を進めた結果、交差点に関連した用地取得が平成 25 年 5 月に契約したので、平成 26 年度に交差点改良に取り組む予定です。また、他の関係する地権者の方と交渉を進めており、交差点改良によって効果が得られることにより事業に対する理解が得られると考え、平成 28 年度の完成を目指します。	関係する南東側地権者（現在歩道未整備区間）の方との交渉に時間を要しています。片側、両側に歩道を作る形態を提示し、用地交渉を進めています。また、現在仮移設している南台町バスベイの整備について町内会と協議中です。平成 30 年度の歩道拡幅工事の完成により事業に対する理解が得られると考えており、平成 33 年度の完成を目指します。	平成 26 年度に交差点改良が完成、平成 30 年度に北側歩道拡幅工事を施工中。

事業進捗状況

主要地方道横浜生田（新羽町地内）

（単位：百万円）

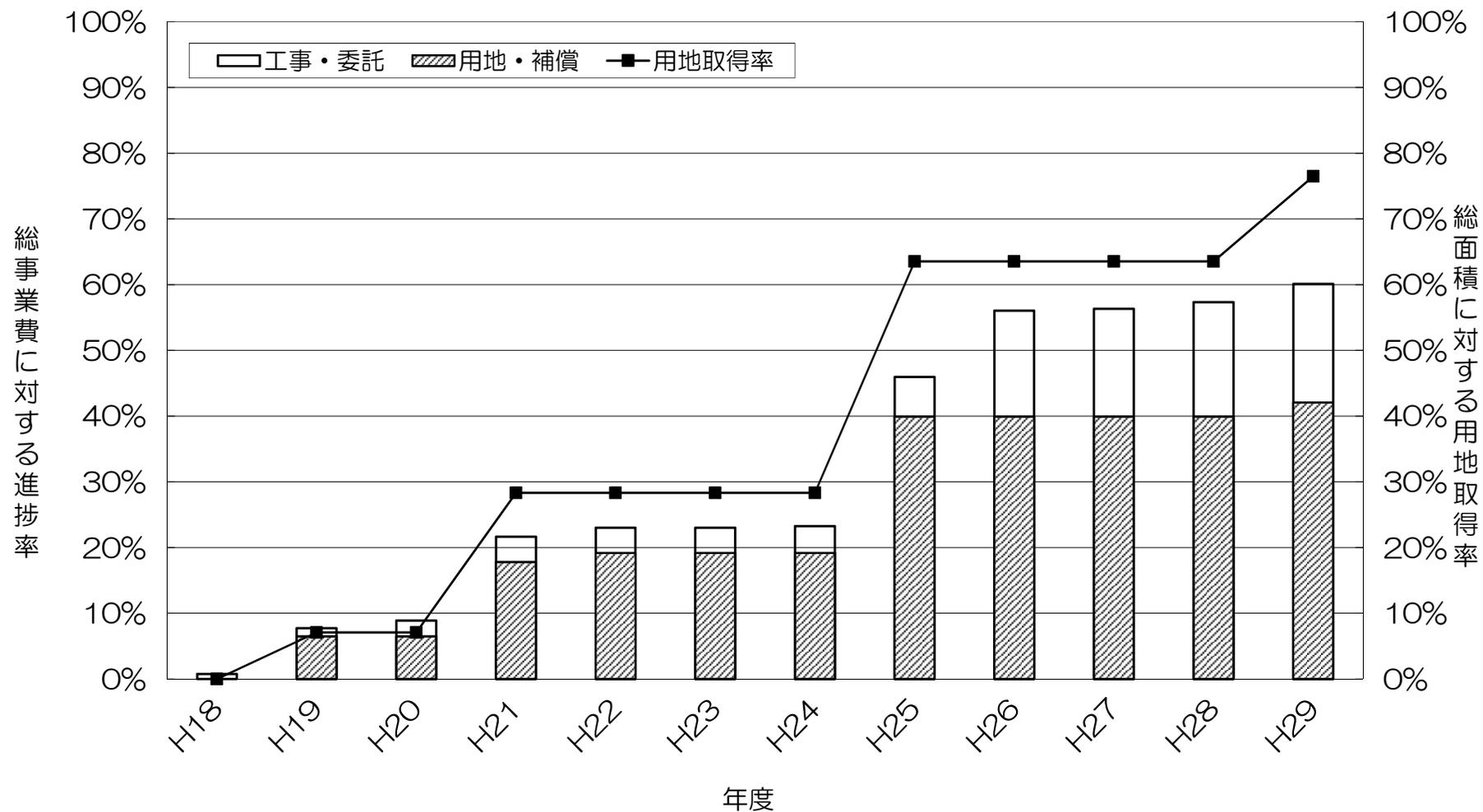
年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計※1	用地・補償※2	工事・委託※2	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率※3
H18	2	0	2	0.7%	0.0%	0.7%	0	0	0.0%
H19	22	20	2	7.7%	6.5%	1.2%	33	33	7.1%
H20	4	0	4	8.9%	6.5%	2.4%	0	33	7.1%
H21	40	35	5	21.6%	17.8%	3.9%	98	131	28.3%
H22	4	4	0	23.0%	19.2%	3.9%	0	131	28.3%
H23	0	0	0	23.0%	19.2%	3.9%	0	131	28.3%
H24	1	0	1	23.2%	19.2%	4.1%	0	131	28.3%
H25	71	65	6	45.9%	39.9%	6.0%	163	294	63.5%
H26	32	0	32	56.1%	39.9%	16.1%	0	294	63.5%
H27	1	0	1	56.3%	39.9%	16.4%	0	294	63.5%
H28	3	0	3	57.3%	39.9%	17.4%	0	294	63.5%
H29	9	7	2	60.1%	42.1%	18.0%	60	354	76.5%
合計	187	131	56				354		

※1 事業進捗率（合計）は全体事業費（様式3参照）に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和

※2 事業進捗率（用地補償、工事委託）は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合

※3 用地取得率は事業全体の取得面積（様式3参照）に占める各年度までの取得面積の割合

事業進捗状況 主要地方道横浜生田（新羽町地内）



【道路－5】再評価

県道瀬谷柏尾道路改良事業（相模新橋地区）

（道路局）

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番 号	道路—5	事業担当局課	泉区泉土木事務所		
事業名	県道瀬谷柏尾道路改良事業（相模新橋地区）		採択年度 平成 25 年度		
施工場所	泉区新橋町 1 3 8 8 番地先から 1 8 7 3 番地先まで		経過年数 5		
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>本事業箇所は、戸塚駅と三ツ境駅を結ぶバスが運行されている路線であり、一日の交通量も 10,000 台以上ある、泉区の主要な道路となっており、都市計画道路中田三ツ境線（計画幅員 11m）の一部となっています。</p> <p>本事業区間(約90m)は、新橋小学校の通学路として利用されていますが、一部(約50m)に狭小(約40cm)な片側のみの歩道しかなく、歩行者の通行が危険な状態になっています。</p> <p>通勤通学時間帯はバスの台数が多いため、バス停では慢性的に後続渋滞が発生しています。</p> <p>今回の事業箇所は安全な歩行者空間の確保や車両交通の円滑化を図るため、両側に歩道を設置し、併せてバスベイの整備を行うものです。</p> <p>事業概要</p> <p>計画延長 約 90m、標準幅員 11m（車道 7m・歩道 2.0m×2）＜現況 7m＞</p>				
			当 初(事業採択時)	変 更(平成 30 年度)	
	事業期間		平成 25 年度～平成 30 年度	平成 25 年度～平成 34 年度	
	事業費	合 計		112 百万円	193.8 百万円
		国 費		—	—
		市 費		112 百万円	193.8 百万円
	変更内容	<p>事業実施段階で詳細に検討した結果、補償費、用地費などが増額となり、事業費が増加しました。</p> <p>また、用地交渉に時間を要しており、事業に多くの時間を要しているため、事業期間を変更しました。</p>			
	上位計画等	<p>横浜市中期 4 か年計画（2018～2021）の政策 20「市民に身近な交通機能等の充実」の主な施策 2「歩行者の安全確保や地域の利便性の向上」としています。</p>			
	関連事業	—			
	事業の 必要性	<p>当該事業区間は通学路となっているが、一部(約50m)に狭小(約40cm)な片側のみの歩道しかなく、歩行者の安全性の確保に課題があり、地元やスクールゾーン協議会からも安全性の向上について要望されています。また、地元連合自治会から歩道設置の要望書（2474名の署名あり）が提出されており、早急な改善が必要となっています。</p>			

事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)			事業全体	残事業
	割引率		4% (2%)	
	総便益(B)		4. 1 億円 (6. 4 億円)	—
	総費用(C)		2. 4 (2. 3)	—
	費用便益比(B/C)		1. 7 (2. 7)	—
	感度分析 [交通量-10%]		1. 1 (1. 8)	—
	[定性的効果] 本事業区間は一部(約 50m)に狭小(約 40cm)な片側のみの歩道しかないため、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保されます。 [その他特記事項]			

事業の 進ちよく 状 況	事業進ちよく率%	平成 29 年度までの事業進捗は 26%、用地取得率は 8.5%になっています。平成 27 年度に一部用地を取得し平成 28 年度に歩道整備工事を行っています。今後は平成 32 年度までに用地買収を終了し、平成 34 年度までに工事を完了する予定です。
	26%	
	用地取得率%	
	8.5%	
	供用等の状況	
	未供用	
事業の課題 及び進ちよく 見 込 み	<p>本地区は現道拡幅であり、店舗や戸建て住宅が多く、買収に伴い建築工事が伴うため、用地取得に多くの時間を要しています。引き続き地権者との用地交渉を進め、平成 30 年度 1 件、平成 31 年度 2 件、平成 32 年度 2 件用地買収を行い、平成 34 年度までに工事を完成する予定です。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<p>工事施工においては、建設発生土の工事間流用を行い、運搬費及び残土処理費のコスト削減を行うとともに、舗装・構造物の基礎等については、再生材や二次製品を使用する等可能な限りコスト削減に努める予定です。</p>	
その他	—	
添付資料	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	

対応方針 (案)	継 続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2
	【見直し内容】	
中 止		

対応方針 (案) として 理由	<p>本事業箇所は、戸塚駅と三ツ境駅を結ぶバスが運行されている路線であり、一日の交通量も10,000台以上ある、泉区の主要な道路となっており、都市計画道路中田三ツ境線（計画幅員11m）の一部となっています。</p> <p>通勤通学時間帯はバスの台数が多いため、バス停では慢性的に後続渋滞が発生していること、通学路にもかかわらず、歩行者の安全の確保が十分でないことから早期の整備を望む声が市民から寄せられています。</p> <p>また、一部拡幅済みであることから、事業を継続する必要があると判断しています。</p>
-----------------------	--

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

位置図



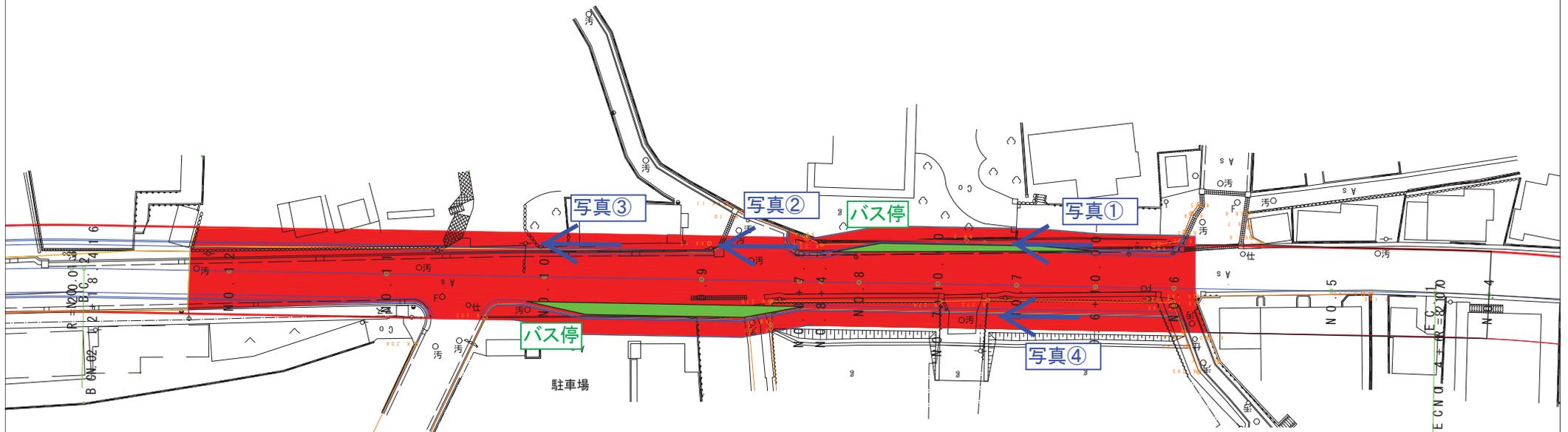
県道瀬谷柏尾道路改良事業（相模新橋地区）



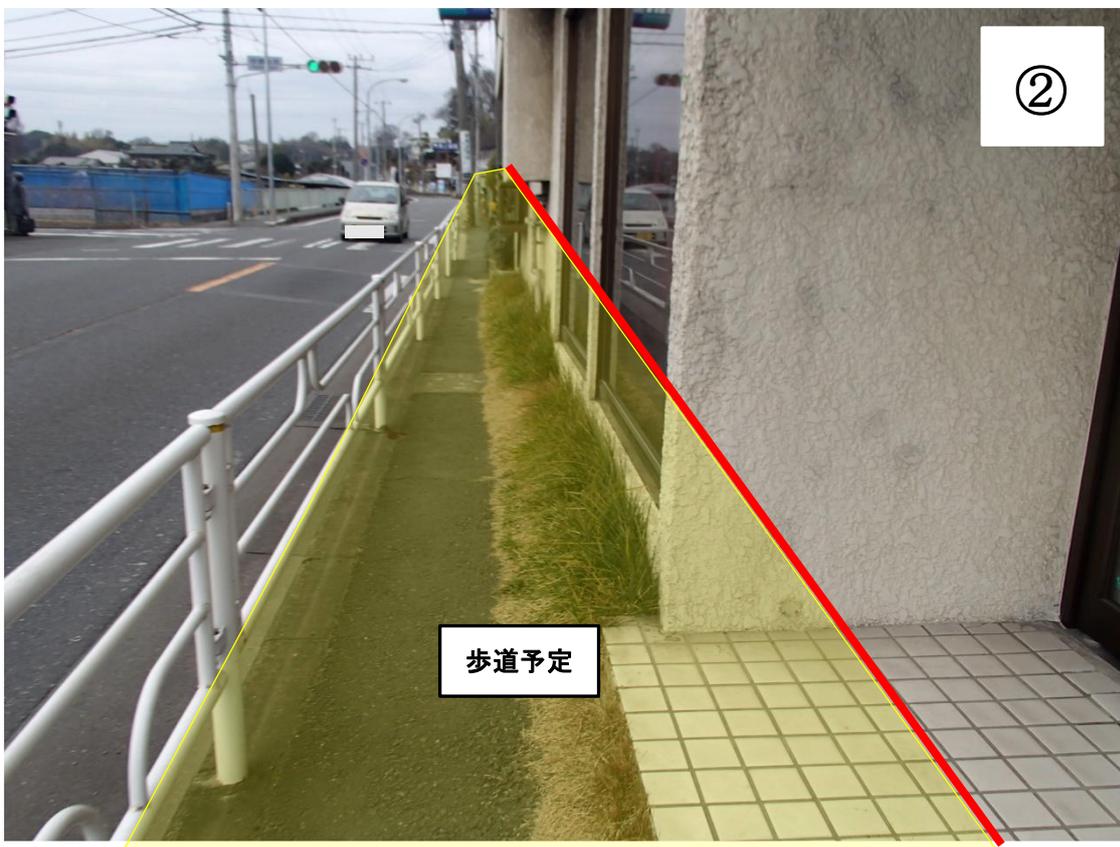
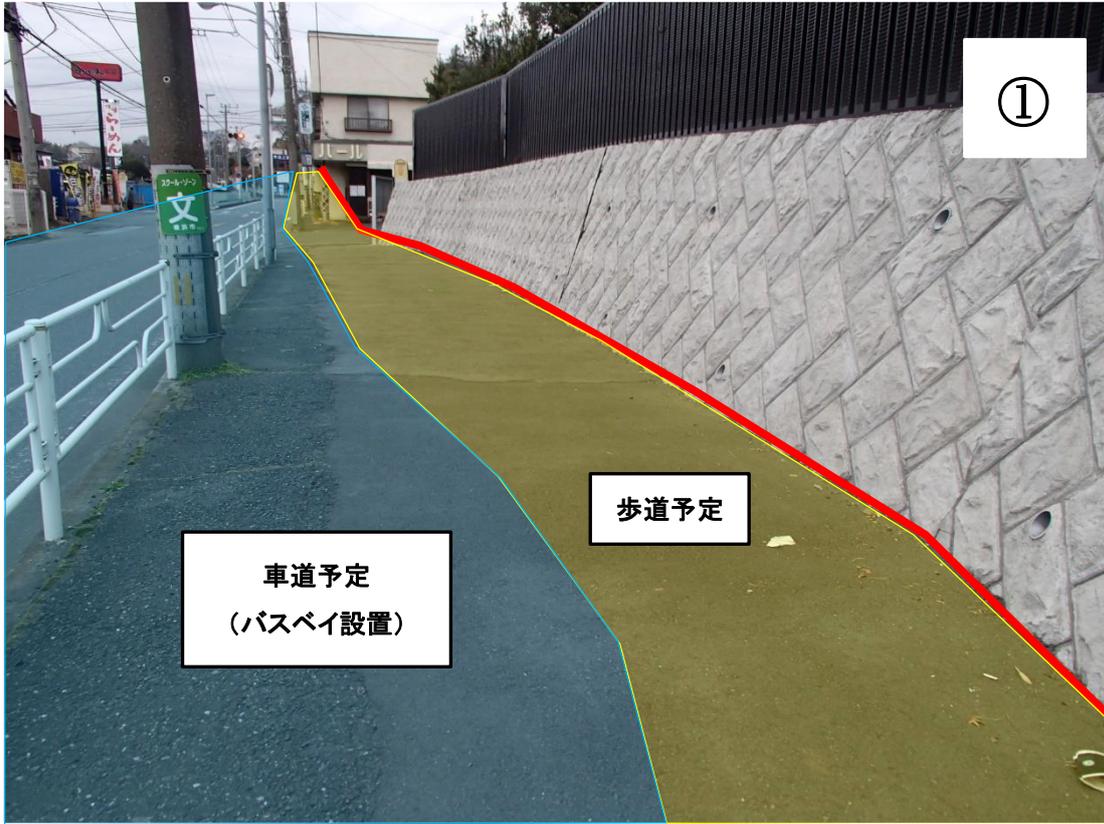
県道瀬谷柏尾（相模新橋地区）道路改良事業

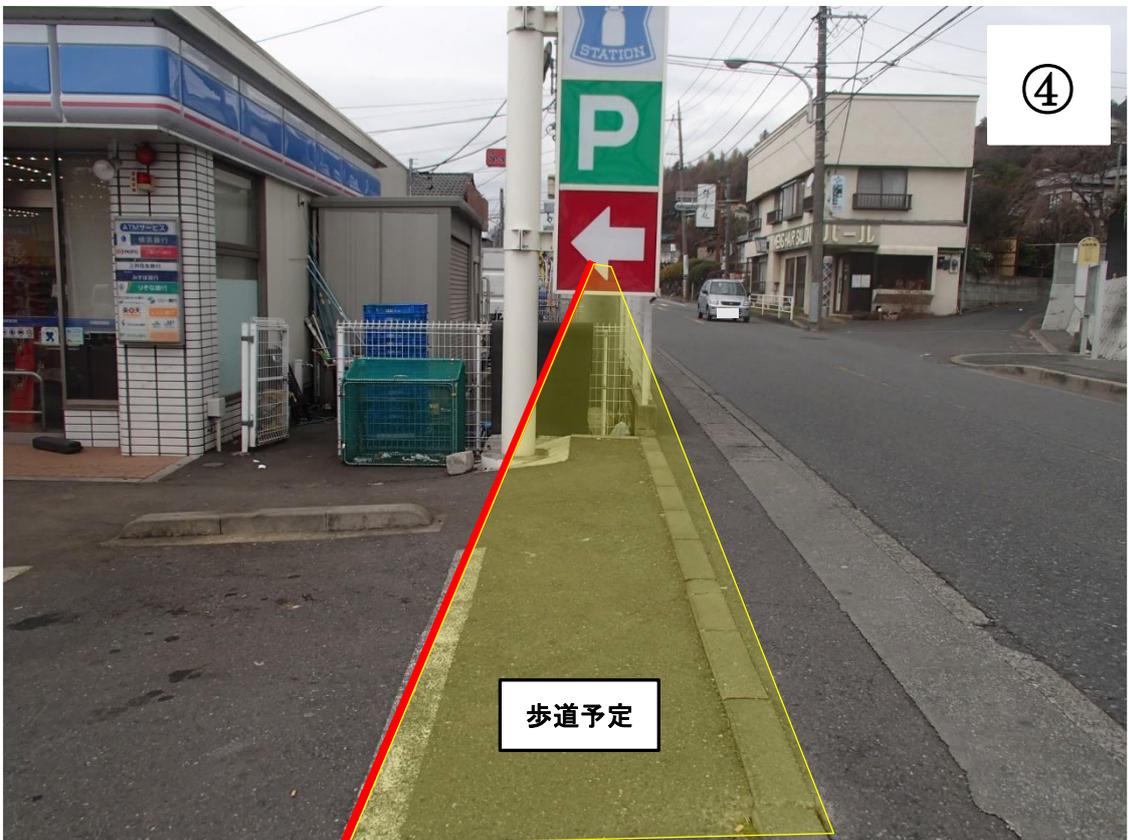
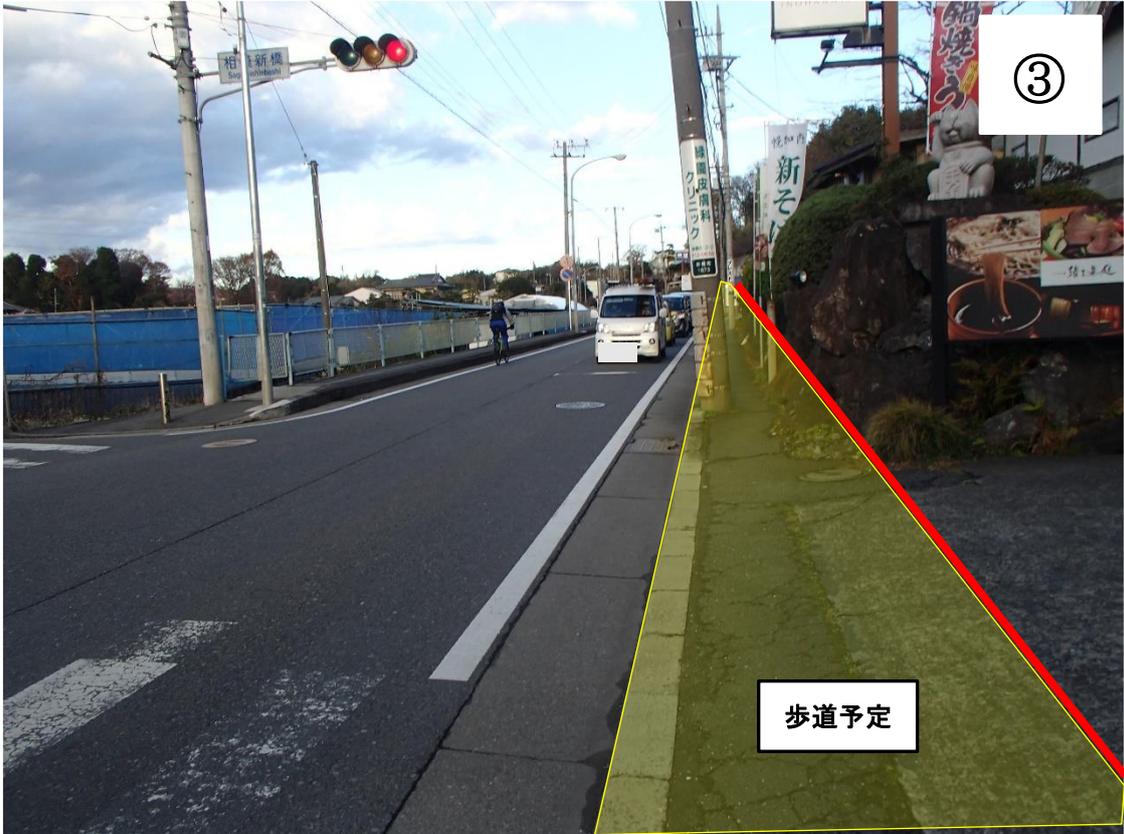


9



凡例	
事業区間	
バスベイ設置予定箇所	





事業進捗状況

県道瀬谷柏尾（相模新橋地区）

（単位：百万円）

年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計※1	用地・補償※2	工事・委託※2	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率※3
H25	3	0	3	1.6%	0.0%	1.6%	0	0	0.0%
H26	4	0	4	3.6%	0.0%	3.6%	0	0	0.0%
H27	11	10	1	9.1%	5.2%	3.9%	39	39	8.5%
H28	28	0	28	23.4%	5.2%	18.2%	0	39	8.5%
H29	5	0	5	26.0%	5.2%	20.8%	0	39	8.5%
合計	50	10	40				39		

- ※1 事業進捗率（合計）は全体事業費（様式3参照）に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和
- ※2 事業進捗率（用地補償、工事委託）は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合
- ※3 用地取得率は事業全体の取得面積（様式3参照）に占める各年度までの取得面積の割合

事業進捗状況 県道瀬谷柏尾（相模新橋地区）

